



SII OP0S  
アプリケーションプログラマーズガイド

Rev.05

[対象製品]  
DSP-A01シリーズ

セイコーインスツル株式会社

Rev.01	2019年 7月
Rev.02	2019年 10月
Rev.03	2020年 8月
Rev.04	2021年 12月
Rev.05	2023年 7月

©セイコーインスツル株式会社 2019-2023

無断転載を禁じます。

本書の内容は、断りなく変更することがあります。

本書及び本書に記載された製品の利用によって発生した  
損害及びその回復に要する費用に対し、当社は一切の責任を負いかねます。

本書を第三者に無断で頒布することを禁じます。

Microsoft®及びWindows®は米国Microsoft Corporationの米国、日本及びその他の国における登録商標です。

BluetoothはBluetooth SIG, Inc.の登録商標です。

---

# はじめに

---

本書は、セイコーインスツル株式会社（以降：SII）が提供する「SII OP0S」（以降：本ソフトウェア）のディスプレイ機能について説明します。

本ソフトウェアは、ディスプレイ、またはSII製プリンターに接続されたディスプレイを制御するOP0S 第1.14.1版ラインディスプレイデバイスクラス準拠のOpenPOSコントロールです。

## 対象製品

---

本書の対象製品について下記に記載します。

	デバイス名	本書での記載
LineDisplay	DSP-A01	ディスプレイ

本ソフトウェアの利用にあたっては「OpenPOS Application Programmer's Guide 日本版仕様書 第1.14.1版」（以降：OP0S APG V1.14.1）も合わせて参照してください。

## 対応ドライバー

---

ディスプレイの利用にあたり、SII製ドライバーが必要です。

対応するSII製ドライバーについては「1.1 構成」を参照してください。

# 本書の表記

本書の表記について説明します。

## 操作と表示

本書は原則、下記の条件に基づき記載します。

- Windows 10 の画面及び表示構成
- マウス及びキーボードによる操作方法

## オペレーティングシステムの略称

本書で使用されているオペレーティングシステムの略称について下記に記載します。

オペレーティングシステム	略称
Microsoft® Windows®の全般	Windows
Microsoft® Windows® 11	Windows 11
Microsoft® Windows® 11 IoT Enterprise	
Microsoft® Windows® 10	Windows 10
Microsoft® Windows® 10 IoT Enterprise	

## 用語一覧

本書で使用する用語について下記の通りに定義します。

用語	内容
OPOS APG V1.14.1	「OpenPOS for OLE Application Programmer's Guide 日本版仕様書第1.14.1版」
OPOS 仕様	OPOS APG V1.14.1で定義されたPOSデバイスインターフェースの仕様。
OPOS コントロール	Windows上に構築されたPOSシステムに、POSデバイス（POS用周辺機器）を容易に統合するための機能を提供するActiveXコントロール準拠のデバイスドライバ。 本書に記載されたOPOSコントロールは、OPOS仕様で定義されたAPIをサポートする。
デバイスクラス	OPOS仕様で定義されたプロパティ、メソッド、イベントのセットを共有するPOSデバイス毎のカテゴリ。本書ではラインディスプレイのデバイスクラスを扱う。
デバイス名	OPOSコントロールを利用する際に指定する制御対象となるPOSデバイスを識別するための名称。 同一デバイスクラス中では重複したデバイス名を作成することはできない。
設定プログラム	本ソフトウェアで提供する、デバイスの追加・設定変更を行うプログラム。 本ソフトウェアをインストールすると、コンピューターには[SII OPOS Utility V2]としてインストールされる。
論理デバイス名	デバイス名の別名。設定プログラムで設定した任意の名前。

用語	内容
コントロールオブジェクト	デバイスクラスごとに、プロパティ、メソッド、イベントのセットをアプリケーションに提供するもの。
サービスオブジェクト	コントロールオブジェクトより呼び出されOP0Sが規定する機能を、各デバイス向けに実行するもの。
ラインディスプレイコントロール	ラインディスプレイデバイスクラスのOP0Sコントロール。制御対象デバイスはディスプレイ。
初期値	使用可能条件を満たした直後の値。
ディスプレイコマンド	「DSP-A01シリーズ カスタマーディスプレイ 技術説明書」に記載されている、ディスプレイを制御するための命令。

## 記号

本書で使用する記号について下記に記載します。

### 注意

- ◆ 注意事項や制限事項を記載しています。

### 参考

- 補足説明や関連事項を記載しています。

---

# 目次

---

1章	概要	1-1
1.1	構成	1-2
1.1.1	構造図	1-2
1.2	動作環境	1-4
1.2.1	システム環境	1-4
1.3	ディスプレイの設定	1-4
1.4	制限事項	1-5
1.4.1	ラインディスプレイコントロール	1-5
2章	インストール	2-1
2.1	インストール	2-1
2.2	アンインストール	2-6
2.3	サイレントインストール	2-7
2.4	サイレントアンインストール	2-8
2.4.1	MsiExec.exe ファイル	2-8
2.4.2	SetupOpos.exe ファイル	2-8
3章	設定プログラムの操作方法	3-1
3.1	起動	3-1
3.2	画面構成	3-2
3.2.1	メニューバー	3-2
3.2.2	デバイスビュー	3-3
3.2.2	設定ビュー	3-3
3.3	機能	3-6
3.3.1	デバイスの追加	3-6
3.3.2	デバイスの設定変更	3-10
3.3.3	デバイスの削除	3-11
3.3.4	論理デバイス名の追加と削除	3-12
3.3.5	デバイスの対話テスト	3-15
4章	OPOSコントロール	4-1
5章	ラインディスプレイコントロールの インターフェイス仕様	5-1
5.1	一覧	5-1
5.1.1	共通プロパティ	5-1
5.1.2	専用プロパティ	5-2
5.1.3	共通メソッド	5-3
5.1.4	専用メソッド	5-4
5.1.5	イベント	5-4

5.2	表示データとエスケープシーケンス .....	5-5
5.2.1	指定時のみ動作するエスケープシーケンス .....	5-5
5.2.2	表示時に動作するエスケープシーケンス .....	5-5
5.3	共通プロパティ .....	5-6
	BinaryConversion プロパティ R/W .....	5-6
	CapCompareFirmwareVersion プロパティ .....	5-7
	CapPowerReporting プロパティ .....	5-7
	CapStatisticsReporting プロパティ .....	5-7
	CapUpdateFirmware プロパティ .....	5-8
	CapUpdateStatistics プロパティ .....	5-8
	CheckHealthText プロパティ .....	5-8
	Claimed プロパティ .....	5-9
	ControlObjectDescription プロパティ .....	5-9
	ControlObjectVersion プロパティ .....	5-9
	DeviceDescription プロパティ .....	5-9
	DeviceEnabled プロパティ R/W .....	5-10
	DeviceName プロパティ .....	5-10
	FreezeEvents プロパティ R/W .....	5-11
	OpenResult プロパティ .....	5-11
	PowerNotify プロパティ R/W .....	5-11
	PowerState プロパティ .....	5-12
	ResultCode プロパティ .....	5-12
	ResultCodeExtended プロパティ .....	5-13
	ServiceObjectDescription プロパティ .....	5-13
	ServiceObjectVersion プロパティ .....	5-13
	State プロパティ .....	5-14
5.4	専用プロパティ .....	5-15
	CapBrightness プロパティ .....	5-15
	CapCharacterSet プロパティ .....	5-15
	CapScreenMode プロパティ .....	5-15
	CharacterSet プロパティ R/W .....	5-16
	CharacterSetList プロパティ .....	5-17
	Columns プロパティ .....	5-17
	CursorColumn プロパティ R/W .....	5-17
	CursorRow プロパティ R/W .....	5-18
	CursorUpdate プロパティ R/W .....	5-18
	DeviceBrightness プロパティ R/W .....	5-19
	DeviceColumns プロパティ .....	5-19
	DeviceRows プロパティ .....	5-20
	DeviceWindows プロパティ .....	5-20
	Rows プロパティ .....	5-20
	ScreenMode プロパティ R/W .....	5-21
	ScreenModeList プロパティ .....	5-21
5.5	共通メソッド .....	5-22
	CheckHealth メソッド .....	5-22
	ClaimDevice メソッド .....	5-22
	Close メソッド .....	5-23

	CompareFirmwareVersion メソッド .....	5-23
	DirectIO メソッド .....	5-24
	Open メソッド .....	5-26
	ReleaseDevice メソッド .....	5-26
	ResetStatistics メソッド .....	5-27
	RetrieveStatistics メソッド .....	5-27
	UpdateFirmware メソッド .....	5-27
	UpdateStatistics メソッド .....	5-27
5.6	専用メソッド .....	5-28
	ClearText メソッド .....	5-28
	DisplayText メソッド .....	5-28
	DisplayTextAt メソッド .....	5-29
<b>6章</b>	<b>本ソフトウェアが使用するレジストリについて</b>	<b>6-1</b>
	6.1 ラインディスプレイコントロール .....	6-1
<b>7章</b>	<b>ヘッダファイルについて</b>	<b>7-1</b>
	7.1 ラインディスプレイヘッダファイル .....	7-1



---

# 1章 概要

---

本章では本ソフトウェアの概要について説明します。

本ソフトウェアはActiveXコントロール仕様に準拠します。プロパティ、メソッド、イベントをアプリケーションに提供します。本ソフトウェアはアプリケーションの実行時にはUI上には見えず、アプリケーションだけがメソッド及びプロパティを通じて処理要求を行います。アプリケーションは、メソッドの戻り値とパラメータ、プロパティ、イベントを通じて、処理結果を受け取ります。本ソフトウェアはインプロセスサーバとして実装されています。

本コントロールが使用するヘッダファイルの内容は、OPOS APG V1.14.1の「付録B OPoSで定義するヘッダファイル」を参照してください。また、追加として本ソフトウェアの固有値を定義しています。この値については本書の「7章 ヘッダファイルについて」を参照してください。

## 1.1 構成

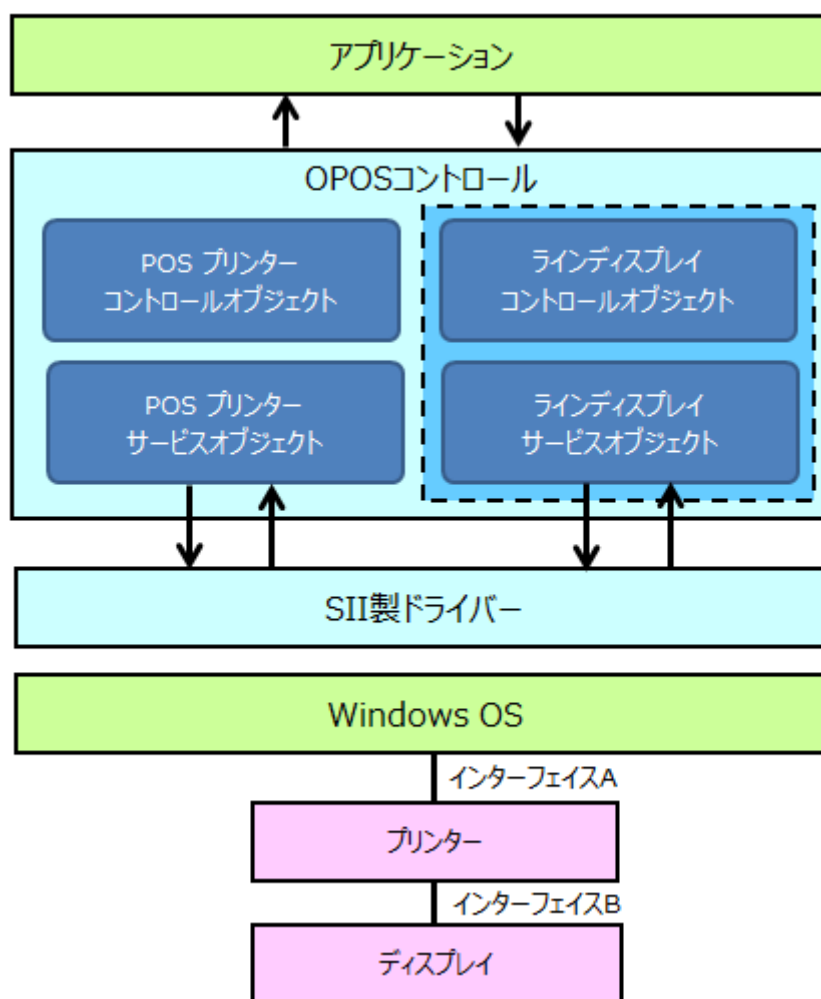
### 1.1.1 構造図

本ソフトウェアの構成を示し、本書の対象範囲を破線で示します。

また、対応するSII製ドライバーについて記載します。

ディスプレイの接続方法は2種類あります。

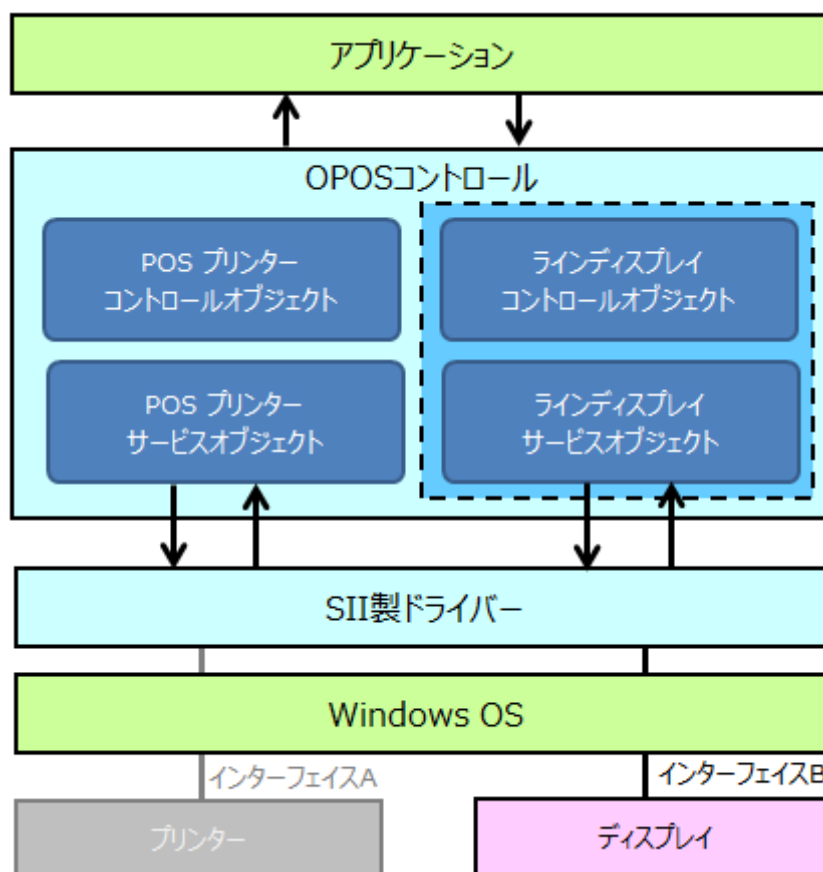
- (1) ディスプレイをSII製プリンターに接続して使用する構成（以降：“プリンター経由で使用”と記載）



#### • 対応ドライバー

SII 製ドライバー	インターフェイス A	プリンター	インターフェイス B	ディスプレイ
RP-F10/G10 シリーズ用 「SII Printer Driver for Windows」	USB Bluetooth TCP/IP	RP-F10 シリーズ	USB	DSP-A01 シリーズ

(2) ディスプレイを単体で使用する構成（以降：“単体で使用”と記載）



• 対応ドライバー

SII 製ドライバー	インターフェイス A	プリンター*1	インターフェイス B	ディスプレイ
DSP-A01 シリーズ用 「SII Printer Driver for Windows」	-	-	USB	DSP-A01 シリーズ

\*1: ディスプレイをサポートする SII 製プリンターは下記の通りです。  
・ RP-F10 シリーズ

## 1.2 動作環境

### 1.2.1 システム環境

本ソフトウェアのシステム環境について下記に記載します。

項目	仕様
オペレーティングシステム	Microsoft® Windows® 11 (64ビット) Microsoft® Windows® 11 IoT Enterprise (64ビット) Microsoft® Windows® 10 (32ビット及び64ビット) Microsoft® Windows® 10 IoT Enterprise (32ビット及び64ビット)
ドライバー	SII製ドライバー： RP-F10/G10シリーズ用「SII Printer Driver for Windows」 または DSP-A01シリーズ用「SII Printer Driver for Windows」

## 1.3 ディスプレイの設定

本ソフトウェア利用時には、ディスプレイのメモリスイッチが下記の[値]に設定されます。

メモリスイッチの詳細については、「DSP-A01シリーズ カスタマーディスプレイ 取扱説明書」を参照してください。

MS	機能	値	備考
1-1 ～ 1-8	明るさ選択 (Brightness)	00000000B : 10% 00000001B : 20% 00000010B : 30% 00000011B : 40% 00000100B : 50% 00000101B : 60% 00000110B : 70% 00000111B : 80% 00001000B : 90% 00001001B : 100%	設定プログラムの [DeviceBrightness]により左記の いずれかの[値]に設定できます。

## 1.4 制限事項

本ソフトウェアの制限事項について説明します。

### 1.4.1 ラインディスプレイコントロール

OPOS仕様で定義されたラインディスプレイデバイスクラスの全てのインターフェースが提供されますが、下記の制限があります。

① テレタイプモード及びマーキーモードに関するメソッド及びプロパティ設定はサポートしていません。

② 下記の機能はサポートしていません。

- ビットマップ表示
- 反転文字
- ブリンク

③ 下記のメソッドはイネーブル後にいずれも必ずOPOS\_E\_ILLEGAL(106)を返します。

- **DisplayBitmap**
- **SetBitmap**

④ 下記のイベントはサポートしていません。

- **StatusUpdateEvent**
- **DirectIOEvent** (デバイス固有イベント)

---

## 2章 インストール

---

本章では本ソフトウェアのインストール・アンインストール手順について説明します。

本ソフトウェアのインストール前に、ドライバーのインストールが必要です。

ドライバーのインストール手順については、「1.1 構成」に記載の「SII Printer Driver for Windows 取扱説明書」のインストール部分を参照してください。

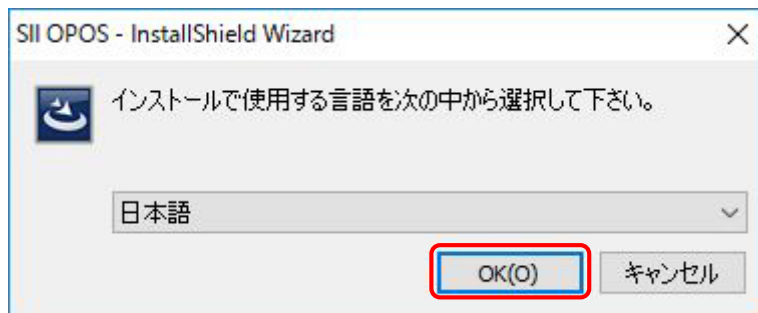
### 注意

- ◆ インストールにはコンピューターの管理者権限が必要です。
- ◆ 本ソフトウェア (Ver.1.31以前のバージョン) が既にインストールされている状態で、カスタムインストールをする場合は、Ver.1.31以前のバージョンはアンインストールしてください。アンインストールせずにVer.1.32以降のバージョンをインストールすると、アップデートインストールとなりインストールする機能の種類を選択できません。  
アンインストールについては、「2.2 アンインストール」を参照してください。

### 2.1 インストール

本ソフトウェアのインストール手順を下記に説明します。

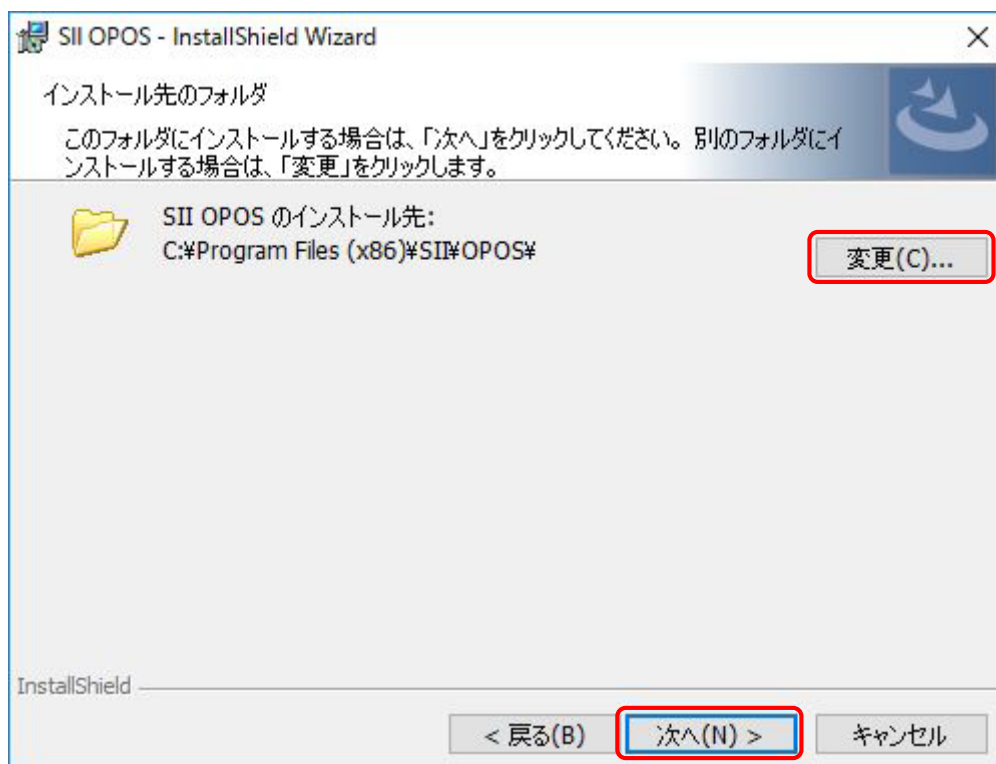
- ① セットアッププログラム (SetupOpos.exe) を起動してください。
- ② 言語を選択します。  
言語を選択して、[OK(O)]ボタンをクリックしてください。



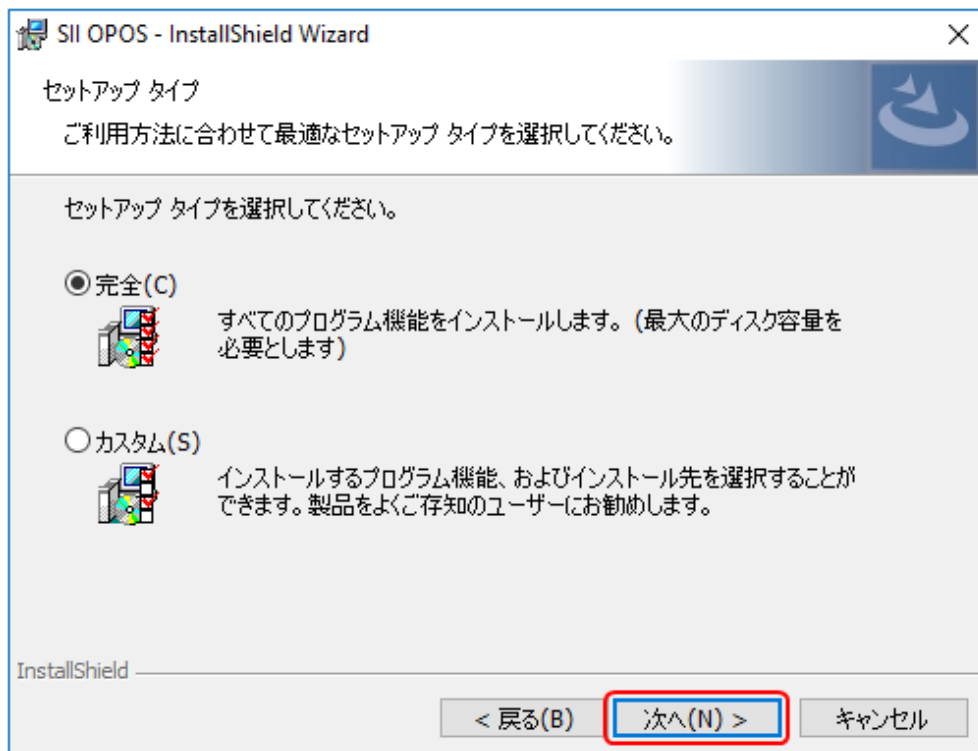
- ③ インストーラが起動するので[次へ(N) >]ボタンをクリックしてください。



- ④ インストールフォルダを指定し、[次へ(N) >]ボタンをクリックしてください。

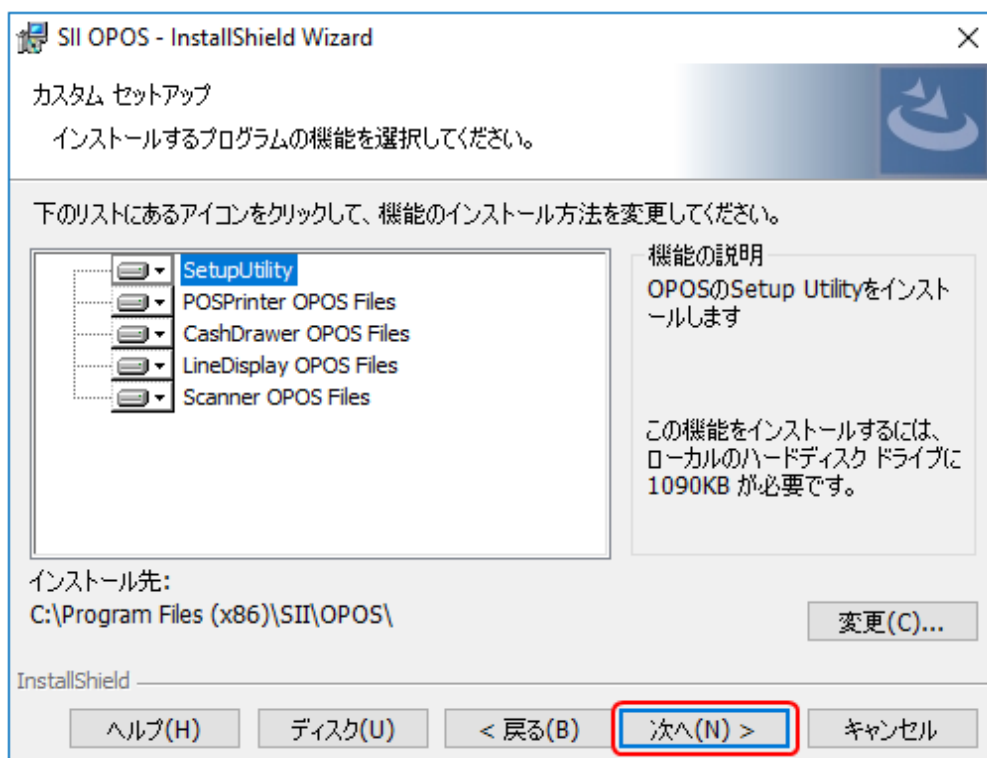


- ⑤ セットアップタイプを選択する画面が表示されます。  
すべての機能をインストールする場合は、「完全(C)」を選択し、[次へ(N) >] ボタンをクリックしてください。



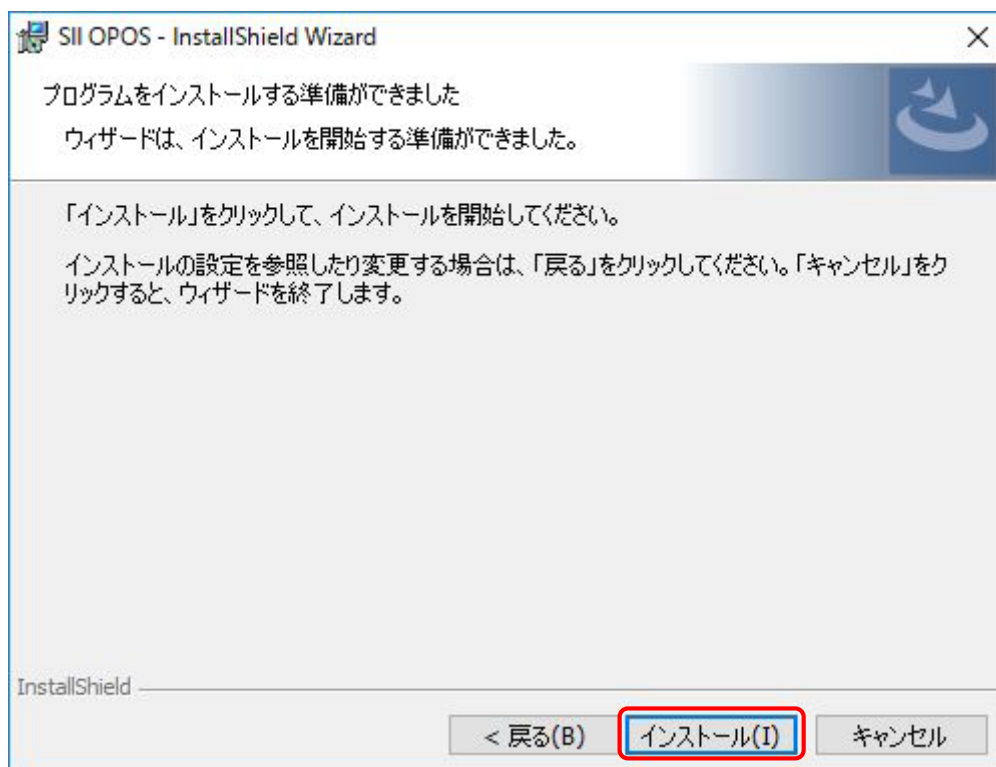
インストールする機能を選択する場合は、「カスタム(S)」を選択し、[次へ(N) >] ボタンをクリックしてください。

カスタムセットアップのウィザード画面が表示されます。インストールする機能を選択し、[次へ(N) >] ボタンをクリックしてください。





- ⑥ [インストール(I)]ボタンをクリックしてください。



- ⑦ [完了(F)]ボタンをクリックしてください。「OPOS Utilityを起動する」のチェックボックスがオンの状態で[完了(F)]ボタンをクリックすると、セットアッププログラムを終了し、設定プログラム (OPOS Utility V2) が起動します。



設定プログラムは、デバイスの追加、削除及び各デバイスに対する設定を行います。設定終了後、設定した値をレジストリに保存します。

設定プログラムの詳細は、「3章 設定プログラムの操作方法」を参照してください。

レジストリの詳細は、「6章 本ソフトウェアが使用するレジストリについて」を参照してください。

## 2.2 アンインストール

本ソフトウェアが不要となった場合は、コントロールパネルの[プログラムと機能]から「プログラムのアンインストール」をクリックしてください。[プログラムのアンインストールまたは変更]画面が表示されるので、[SII OP0S]を選択し、[アンインストール]ボタンをクリックしてください。

## 2.3 サイレントインストール

サイレントモードでのインストールは、すべての機能をインストールする方法と機能を指定してインストールする方法があります。

サイレントモードでインストールする際のコマンドは下記の書式となります。

```
Setup0pos.exe /s /v"/qn [ADDLOCAL=StandardFiles[, POSPrinter][, CashDrawer][, LineDisplay][, Scanner]]"
```

コマンド例を下記に示します。

- サイレントモードですべての機能をインストールする場合

```
Setup0pos.exe /s /v"/qn"
```

- サイレントモードで POSPrinter と CashDrawer をインストールする場合

```
Setup0pos.exe /s /v"/qn ADDLOCAL=StandardFiles, POSPrinter, CashDrawer"
```

### 注意

- ◆ 引数の /v(スラッシュv)の後ろにスペースを入れないでください。
- ◆ ADDLOCALで機能を指定する場合は、StandardFilesの記述が必要です。
- ◆ ADDLOCALで機能を指定する場合は、空白文字を含めないでください。
- ◆ 本ソフトウェア (Ver.1.31以前のバージョン) が既にインストールされている状態で ADDLOCALで機能を指定する場合は、Ver.1.31以前のバージョンはアンインストールしてください。

### 参考

- サイレントモードでインストールする際に、インストーラのGUIは表示されませんが、Windows のアカウント制御確認のダイアログが表示されます。
- コマンドでは大文字と小文字を区別します。

## 2.4 サイレントアンインストール

サイレントモードでのアンインストールの方法を下記に示します。

実行ファイル	説明
MsiExec.exe	セットアッププログラム (Setup0pos.exe) 及びインストール済みの本ソフトウェアのバージョンにかかわらず実行できます。 「2.4.1 MsiExec.exe ファイル」を参照してください。
Setup0pos.exe	お持ちのセットアッププログラム (Setup0pos.exe) とインストール済みの本ソフトウェアのバージョンが同じ場合に実行できます。 「2.4.2 Setup0pos.exe ファイル」を参照してください。

### 2.4.1 MsiExec.exe ファイル

管理者モードでコマンドプロンプトを起動し、次のコマンドを実行してください。

```
MsiExec.exe /qn /x {9C13F697-C8FC-4B9C-BF2E-95DB8C9E6773}
```

#### 注意

◆ 管理者モードのコマンドプロンプトで実行しないとアンインストールはできません。

### 2.4.2 Setup0pos.exe ファイル

管理者モードでコマンドプロンプトを起動し、次のコマンドを実行してください。

```
Setup0pos.exe /s /x /v"/qn"
```

#### 注意

◆ 引数の /v(スラッシュv)の後ろにスペースを入れないでください。

#### 参考

- 管理者モードのコマンドプロンプトで実行しない場合、Windowsのアカウント制御確認のダイアログが表示されます。
- アンインストールできない場合は、MsiExec.exeファイルを利用したアンインストール方法をお試しください。

---

## 3章 設定プログラムの操作方法

---

本章では本ソフトウェアで提供する設定プログラムについて説明します。

### 3.1 起動

設定プログラムの起動手順を下記に説明します。

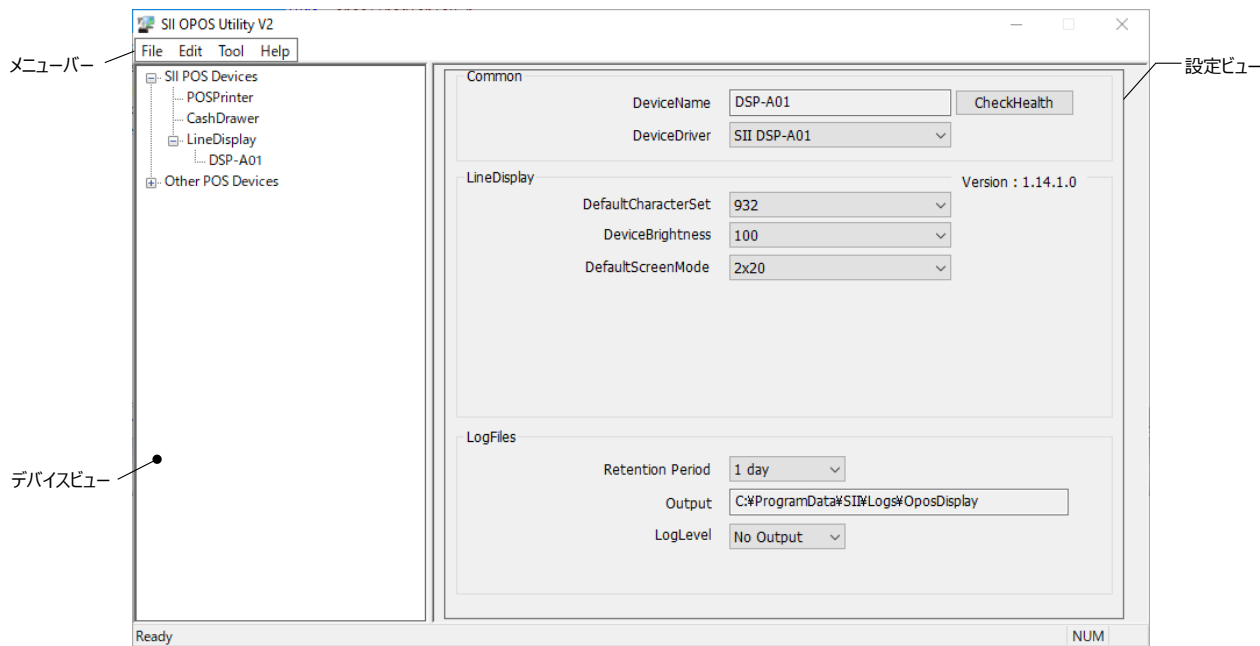
- Windows 11の場合：  
スタートメニューから[すべてのアプリ] - [OPOS Utility V2]を選択すると、設定プログラムが起動します。
- Windows 10の場合：  
スタートメニューから[SII OPOS] - [OPOS Utility V2]を選択すると、設定プログラムが起動します。

#### 注意

- ◆ 本ソフトウェアは、プリンタードライバーを利用して動作します。プリンタードライバーがインストールされていないコンピューターでは、本ソフトウェアは使用できません。
- ◆ 本ソフトウェアの使用にはコンピューターの管理者権限が必要です。

## 3.2 画面構成

設定プログラムの画面構成について説明します。



項目	説明
メニューバー	設定プログラムのメニューバーです。 メニューバーの項目については、「3.2.1 メニューバー」を参照してください。
デバイスビュー	システムに登録されたデバイスのデバイスタイプ、デバイス名及び論理デバイス名をツリーで表示します。
設定ビュー	「デバイスビュー」で選択されたデバイスの設定内容を表示します。 デバイスの項目については、「3.2.3(1) ディスプレイの設定項目」を参照してください。

### 3.2.1 メニューバー

項目		説明
File	Exit	設定プログラムを終了します。
Edit	Add Device...	新しいデバイスを追加します。
	Add Logical Device Name...	新しい論理デバイス名を追加します。
	Delete	選択中のデバイスを削除します。
Tool	CheckHealth	選択中のデバイスに対して対話テストを実行します。
Help	About SIIOPOSUtility...	設定プログラムのバージョン情報を表示します。

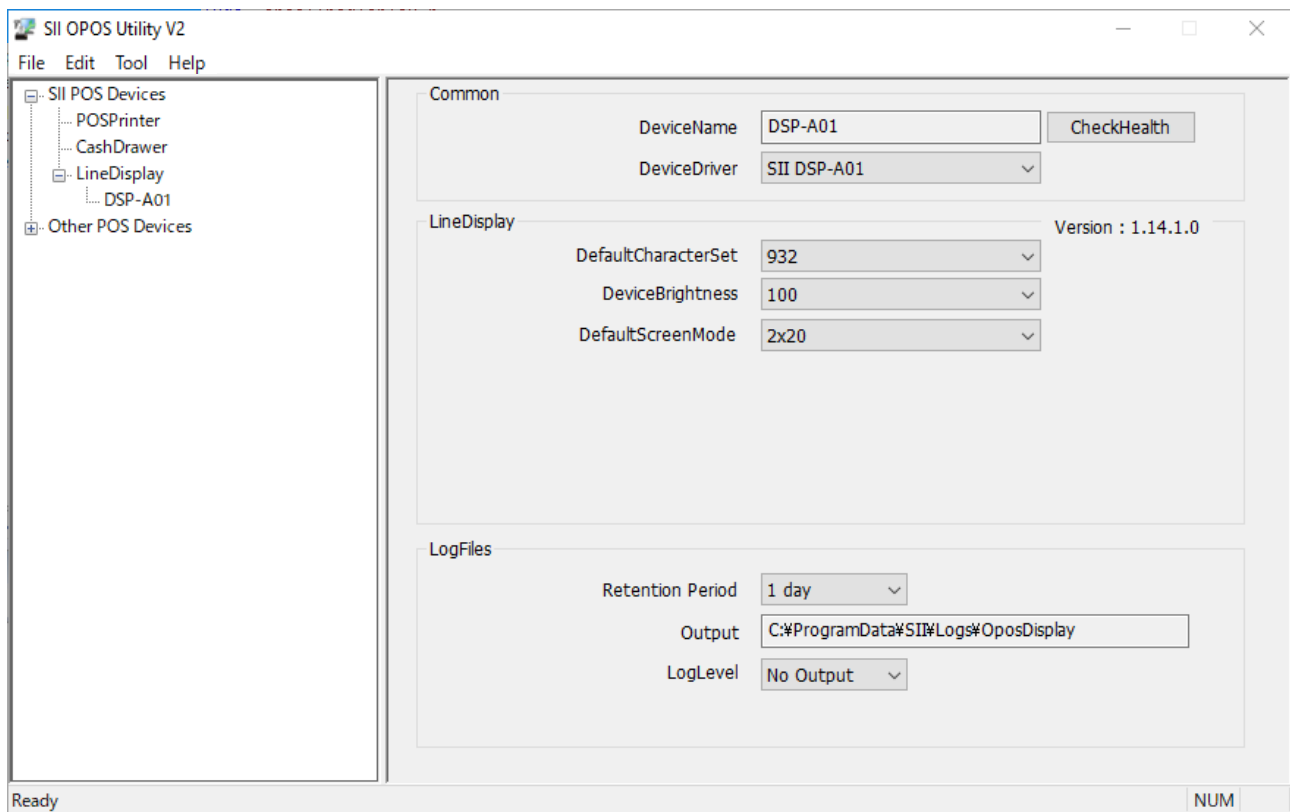
### 3.2.2 デバイスビュー

名称	説明
SII POS Devices	SII 製のデバイスを表示します。 「デバイスビュー」でデバイス名が選択されている場合、デバイスの削除及び論理デバイス名の追加ができます。
Other POS Devices	SII 製以外のデバイスを表示します。 デバイスの設定変更はできません。

### 3.2.3 設定ビュー

#### (1) ディスプレイの設定項目

「設定ビュー」に表示される項目と設定内容について下記に説明します。





項目	説明	設定内容 (“ ” : 初期値)
Common		
DeviceName	デバイス名	「デバイスビュー」で選択したディスプレイのデバイス名
CheckHealth	選択中のデバイスに対する対話テストの実行	-
DeviceDriver	ディスプレイとの通信に使用するSII製ドライバー	-
LineDisplay		
DefaultCharacterSet	文字セットの種類 <b>CharacterSet</b> はこの値で初期化されます。 詳細は <b>CharacterSet</b> を参照してください。	437 737 850 852 855 857 858 860 863 865 866 932*1 999*2 1250 1251 1252 1253 1254
DeviceBrightness	輝度設定	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
DefaultScreenMode	デバイスのスクリーンモード デバイスの行数×桁数	2×20 5×20 2×40 5×40 8×40

項目	説明	設定内容 (“ ” : 初期値)
LogFiles		
Retention Period	ログファイルの保存期間 保存期間を過ぎたログファイルは、 ログの出力時に消去されます。 実際の保存期間は、最大一日分長く なる可能性があります。	1 day : 1 日分 3 days : 3 日分 10 days : 10 日分 30 days : 30 日分 90 days : 90 日分
Output	ログの出力先（固定） ログの出力先、及びファイル名は下記の通りです。 出力先： <システムドライブ>:\ProgramData\SII\Logs\LineDisplay 出力先の変更はできません。 ファイル名： <yyyyMMdd>.log ログファイルの最大サイズは 32MB です。ログファイルが最大サイズを超えた場合は、 ファイル名を<yyyyMMdd_hhmmssfff>.log に変更し、新たに<yyyyMMdd>.log を作成し ます。*3	
LogLevel	ラインディスプレイサービスオブジ ェクトのログ出力レベル	No Output : ログを出力しません Error : 実行時エラーのログを出力します Trace : 詳しい動作の履歴及びダンプログを 出力します

\*1: 日本語の場合の初期値

\*2: 英語の場合の初期値

\*3: ファイル名に使用される記号の意味を下記に説明します。各値は Windows のシステムクロックに由来します。

yyyy : 年  
MM : 月  
dd : 日  
hh : 時  
mm : 分  
ss : 秒  
fff : ミリ秒

### 3.3 機能

設定プログラムの機能について説明します。

#### 3.3.1 デバイスの追加

デバイスの追加手順について説明します。

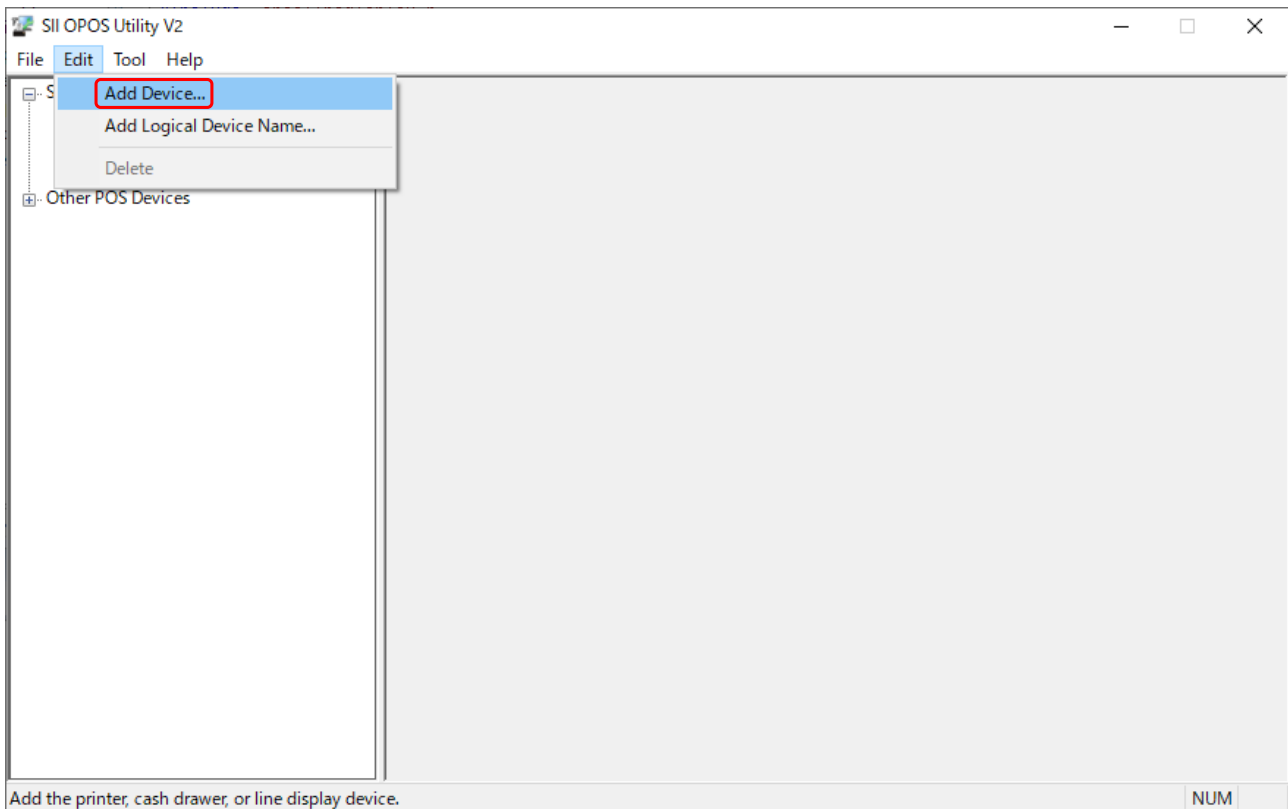
本ソフトウェアをインストールした直後に設定プログラムを起動した場合、デバイスが追加されていないためデバイスを追加する必要があります。

新たにデバイスを追加する場合は、あらかじめ利用する通信ポートに対するドライバーのインストールが必要です。ドライバーのインストールは、「1.1 構成」に記載の「SII Printer Driver for Windows 取扱説明書」を参照してください。

ディスプレイは最大99台まで追加できます。

##### (1) ディスプレイの追加

- ① 設定プログラムを起動すると、下記の画面が表示されます。「メニューバー」から[Edit] – [Add Device...]を選択してください。



- ② [DeviceClass]で「LineDisplay」を選択し、[次へ(N) >]ボタンをクリックしてください。

Add Device

Please choose the device class.

DeviceClass

LineDisplay  
POSPrinter  
CashDrawer  
LineDisplay

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

- ③ [Device Model]から追加するディスプレイを選択し、[次へ(N) >]ボタンをクリックしてください。

Add Device

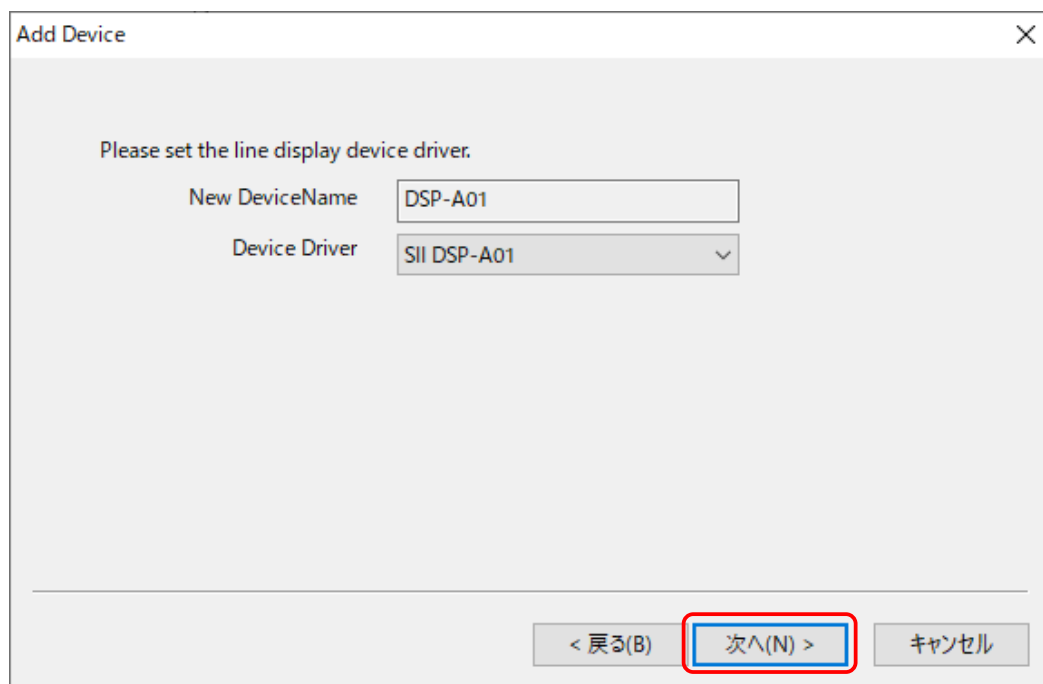
Please choose the line display model.

Device Model

DSP-A01

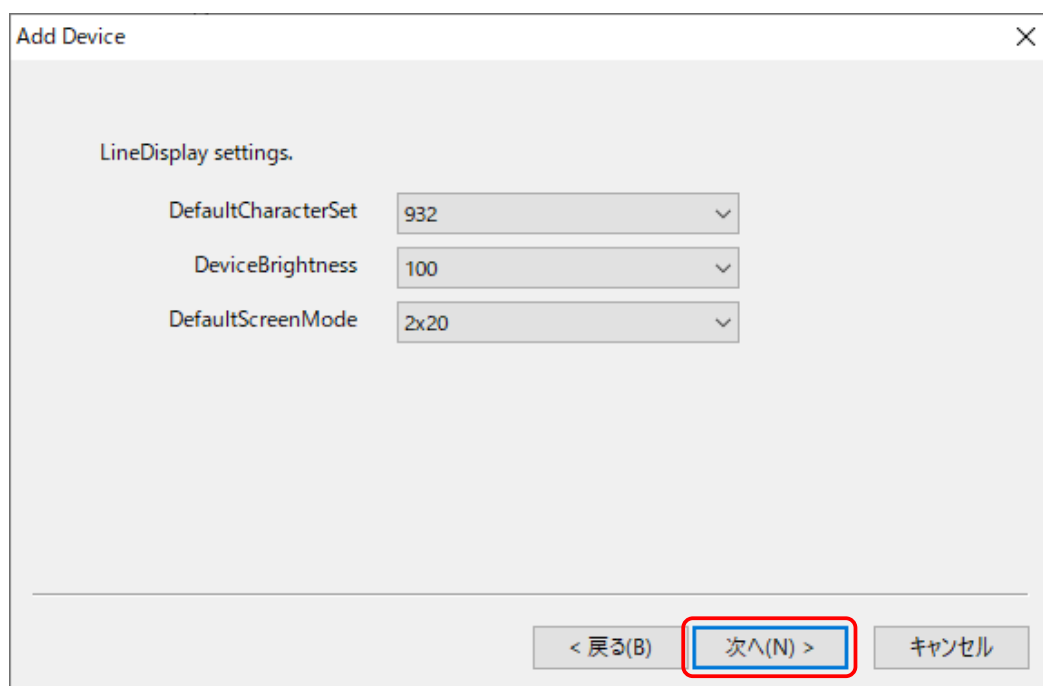
< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

- ④ [Device Driver]から③で選択したデバイスに対して利用するドライバーを選択してください。  
ディスプレイをプリンター経由で使用する場合は、接続しているプリンターの対応ドライバーを選択してください。  
ディスプレイを単体で使用する場合は、ディスプレイの対応ドライバーを選択してください。  
ドライバーを選択後、[次へ(N) >]ボタンをクリックしてください。[New DeviceName]は自動で設定されます。



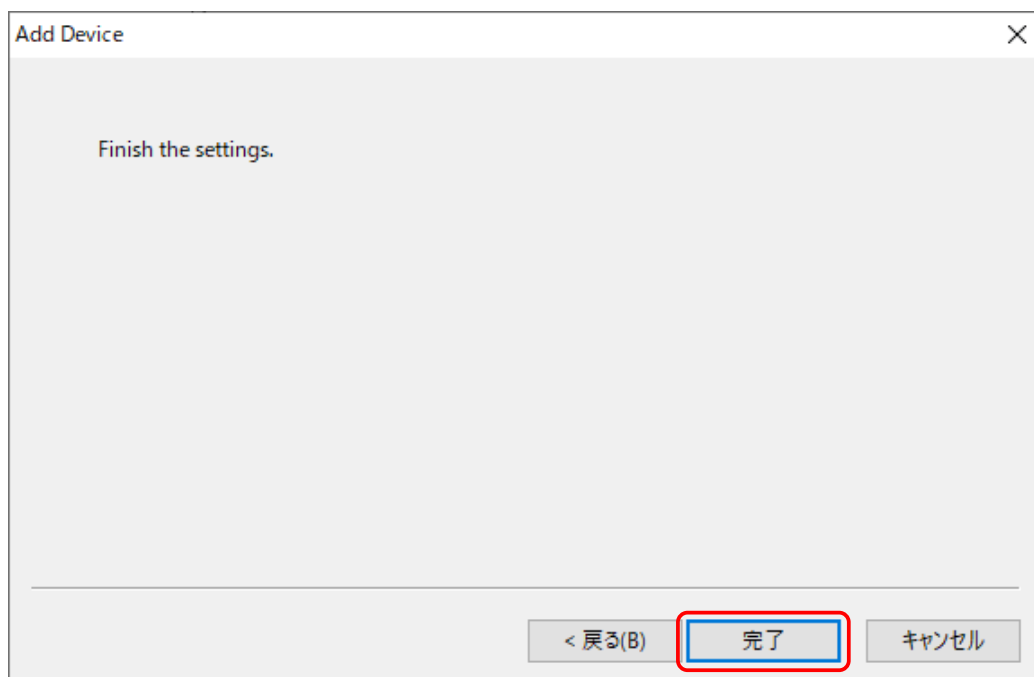
The screenshot shows a dialog box titled "Add Device" with a close button (X) in the top right corner. The main text inside says "Please set the line display device driver." Below this, there are two input fields: "New DeviceName" with the value "DSP-A01" and "Device Driver" with a dropdown menu showing "SII DSP-A01". At the bottom right, there are three buttons: "< 戻る(B)", "次へ(N) >" (which is highlighted with a red rectangle), and "キャンセル".

- ⑤ ディスプレイの設定内容を入力または選択し、[次へ(N) >]ボタンをクリックしてください。

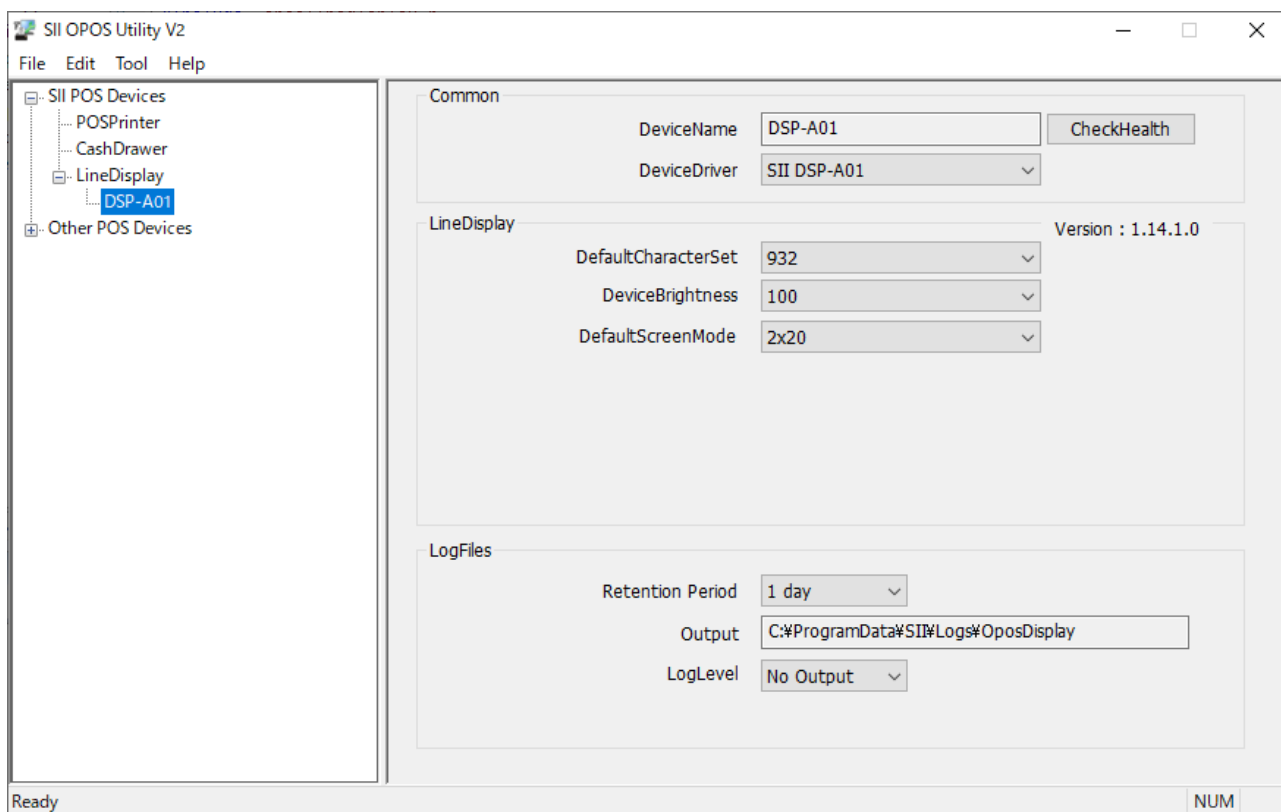


The screenshot shows the same "Add Device" dialog box, but now it displays "LineDisplay settings." instead of the driver selection screen. There are three input fields: "DefaultCharacterSet" with the value "932", "DeviceBrightness" with the value "100", and "DefaultScreenMode" with the value "2x20". At the bottom right, the same three buttons are present: "< 戻る(B)", "次へ(N) >" (highlighted with a red rectangle), and "キャンセル".

- ⑥ [完了] ボタンをクリックしてください。



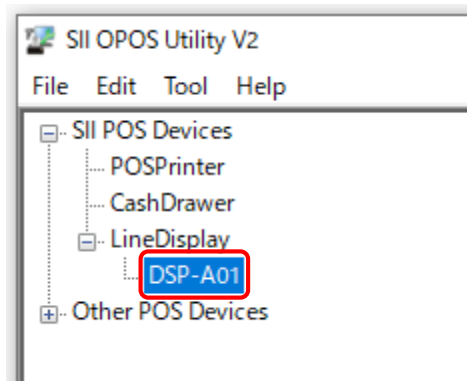
- ⑦ 「設定ビュー」の内容を確認してください。



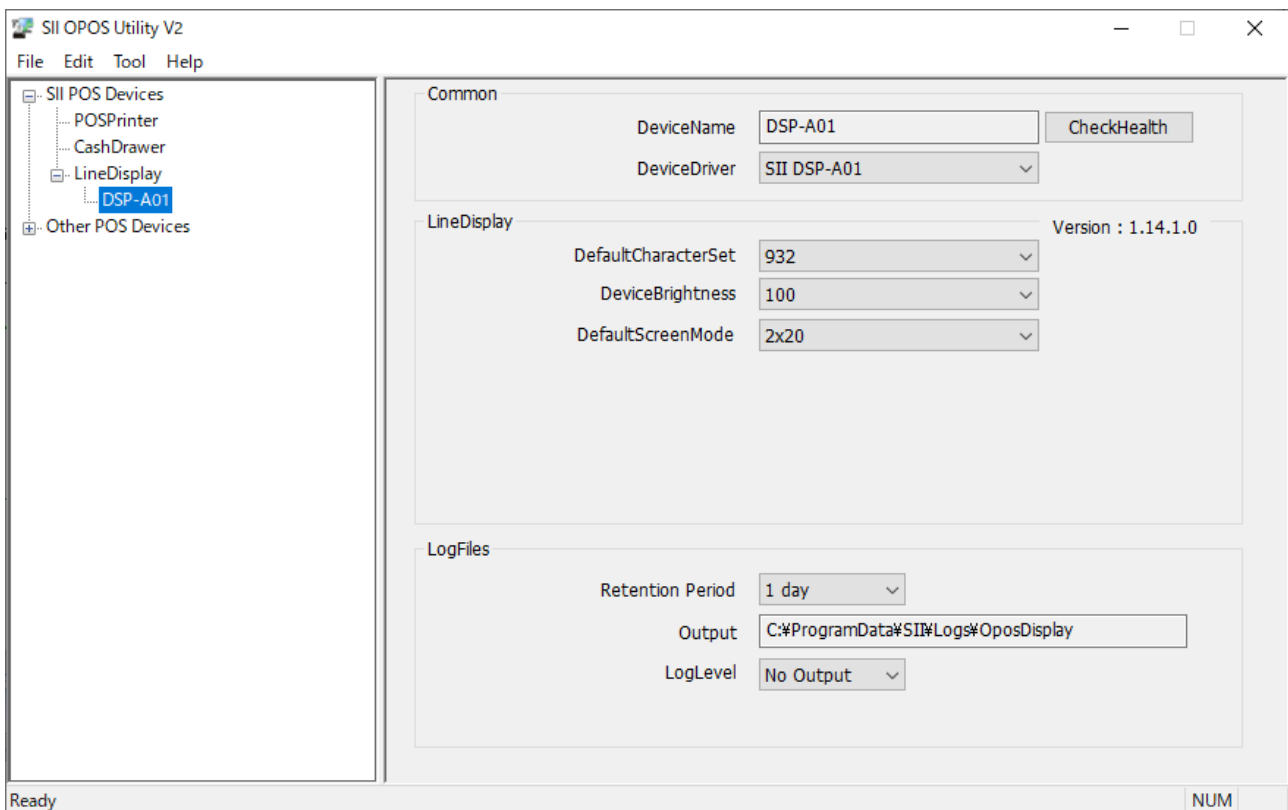
### 3.3.2 デバイスの設定変更

追加したデバイスの設定変更手順について説明します。

- ① 「デバイスビュー」から変更を行うデバイスのデバイス名を選択してください。



- ② 「設定ビュー」が編集可能状態で表示されます。内容を変更してください。



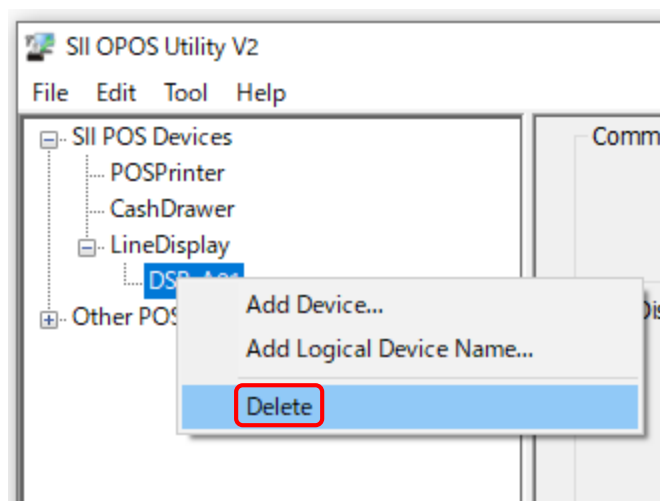
#### 参考

- 設定した内容は他デバイスの選択または設定プログラムを終了した時点でレジストリに保存されます。

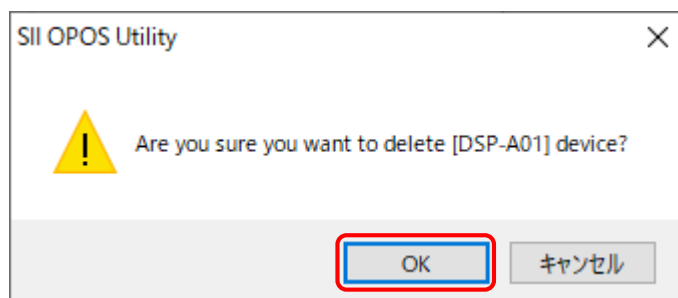
### 3.3.3 デバイスの削除

追加したデバイスの削除手順について下記に説明します。

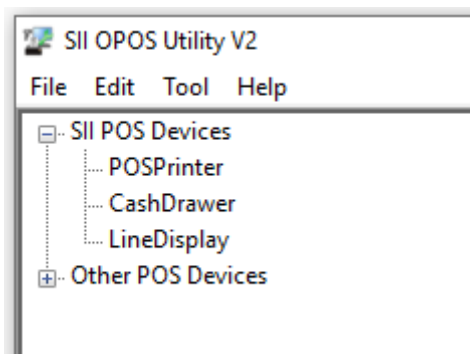
- ① 「デバイスビュー」から削除するデバイスを選択し、右クリックメニューから[Delete]を選択します。



- ② デバイス名を確認して、[OK]ボタンをクリックします。



- ③ 選択したデバイスが「デバイスビュー」から削除されたことを確認してください。



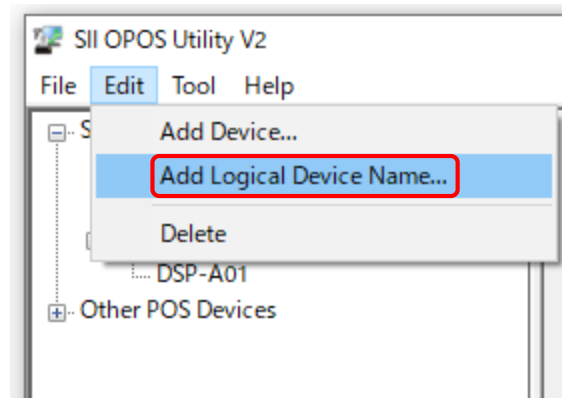


### 3.3.4 論理デバイス名の追加と削除

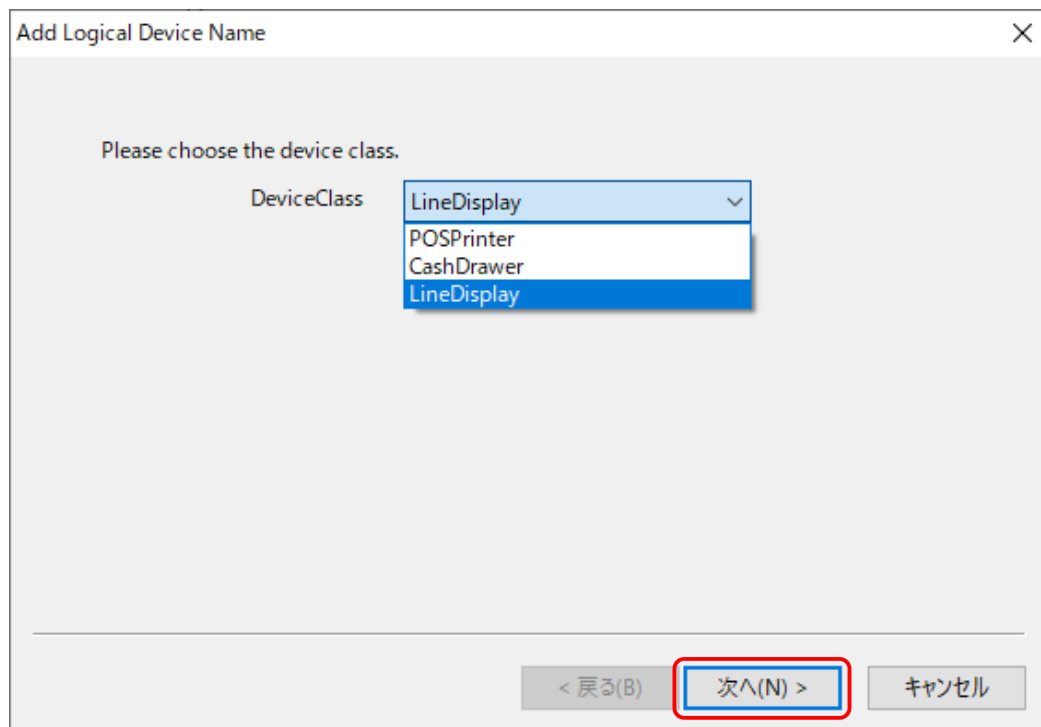
論理デバイス名の追加と削除手順について説明します。

#### (1) 論理デバイス名の追加

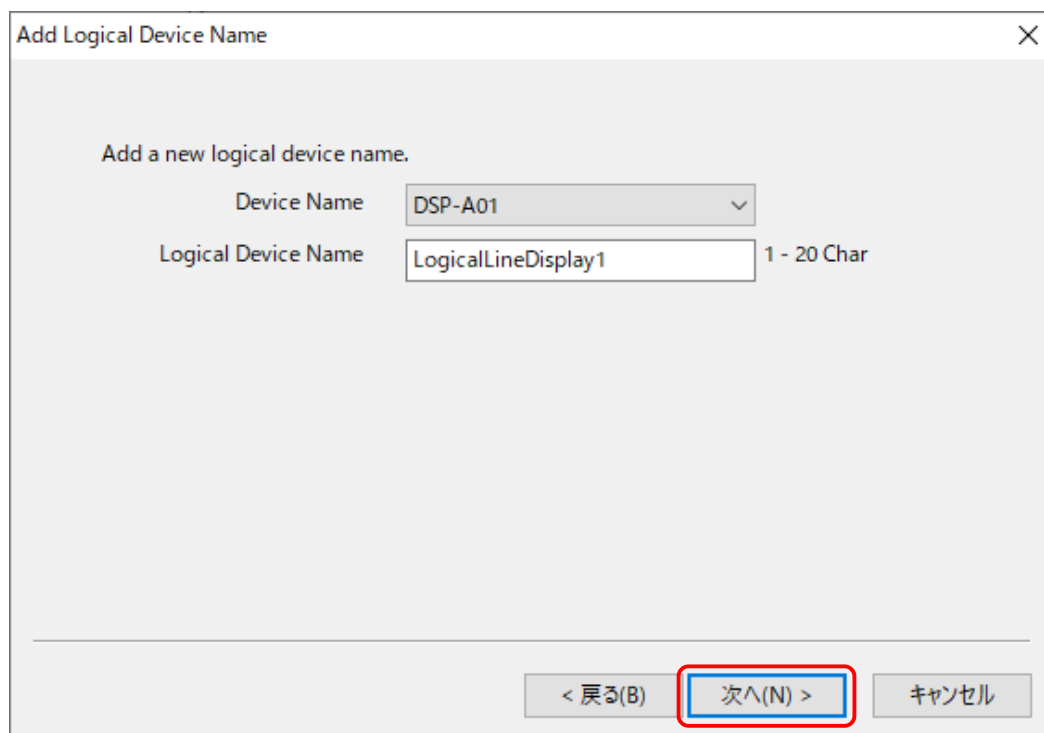
- ① 設定プログラムを起動し、「メニューバー」から[Edit] – [Add Logical Device Name...]を選択してください。



- ② [DeviceClass]で対象のデバイスを選択し、[次へ(N) >]ボタンをクリックしてください。



- ③ [Device Name]から対象のデバイス名を選択し、[Logical Device Name]（論理デバイス名）を入力してください。[次へ(N) >]ボタンをクリックしてください。



Add Logical Device Name

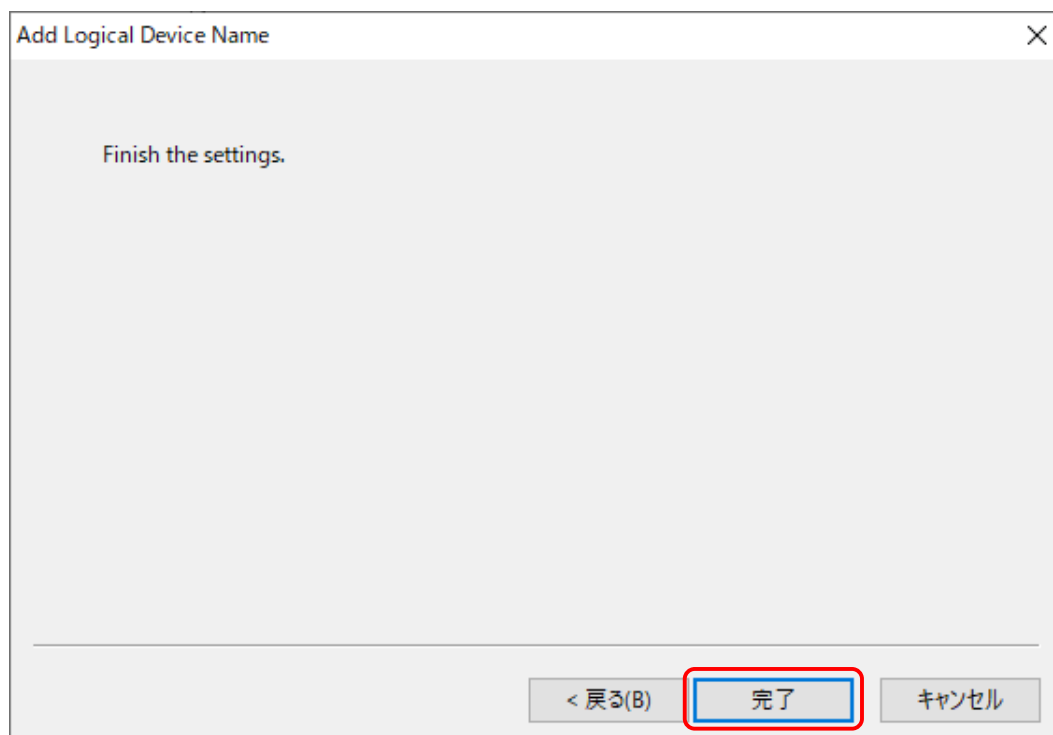
Add a new logical device name.

Device Name DSP-A01

Logical Device Name LogicalLineDisplay1 1 - 20 Char

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

- ④ [完了]ボタンをクリックしてください。

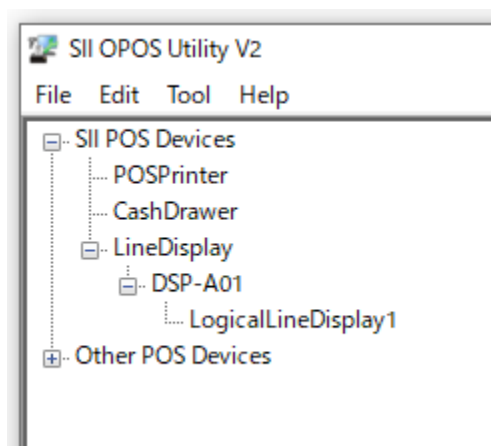


Add Logical Device Name

Finish the settings.

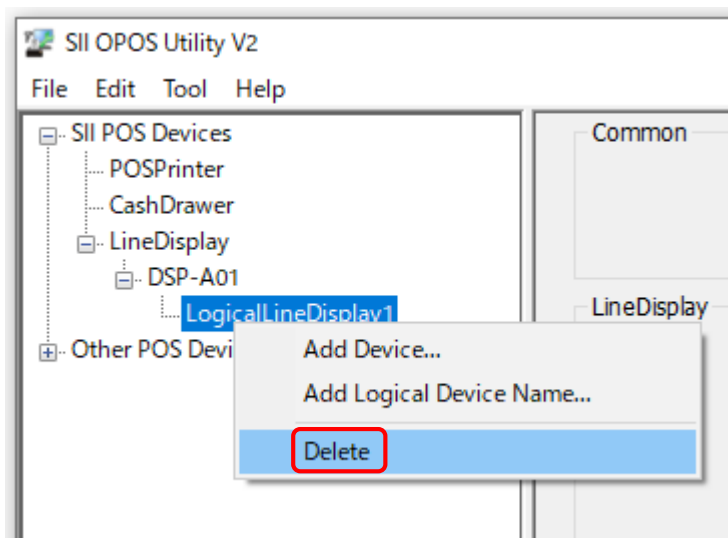
< 戻る(B) 完了 キャンセル

- ⑤ 「デバイスビュー」の内容を確認してください。

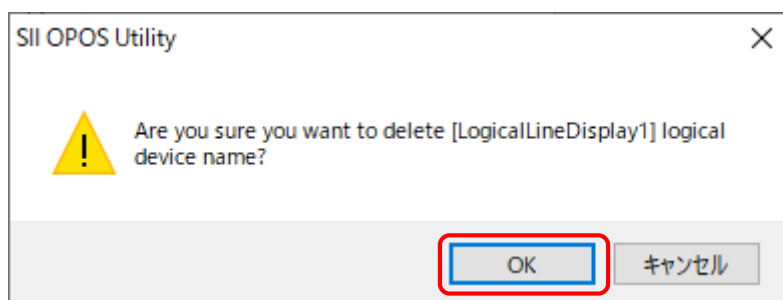


## (2) 論理デバイス名の削除

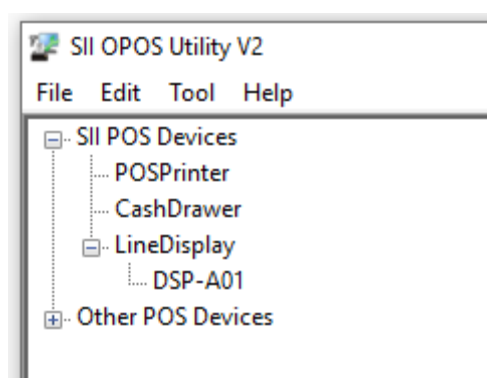
- ① 「デバイスビュー」から削除対象とする論理デバイス名を選択し、右クリックメニューから、[Delete]を選択してください。



- ② 論理デバイス名を確認して、[OK]ボタンをクリックしてください。



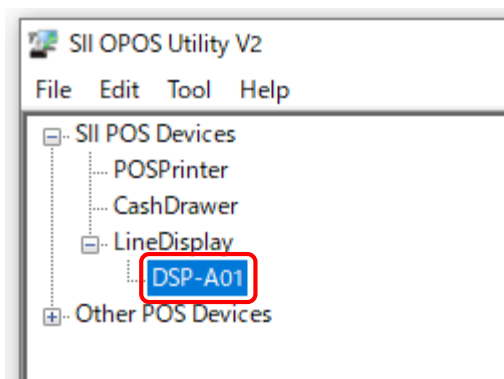
- ③ 選択した論理デバイス名が「デバイスビュー」から削除されたことを確認してください。



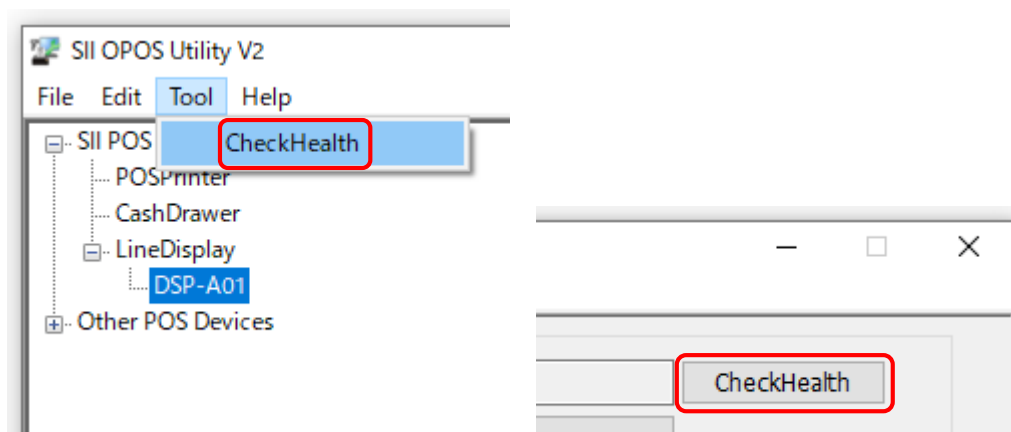
### 3.3.5 デバイスの対話テスト

設定プログラムでは「デバイスビュー」で選択したデバイスに対して、対話テストが実行できます。対話テストの手順を下記に説明します。

- ① 「デバイスビュー」から対話テストを行うデバイスのデバイス名または論理デバイス名を選択してください。



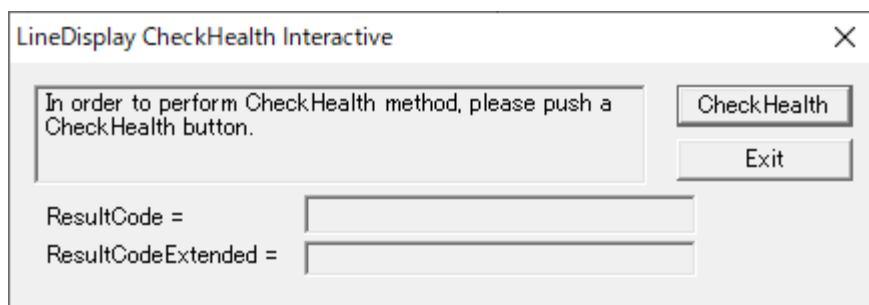
- ② 「メニューバー」から[Tool]メニュー - [CheckHealth]を選択するか、「設定ビュー」の[CheckHealth]ボタンをクリックしてください。



- ③ 対話テストの準備を開始します。

#### 【対話テストの準備に成功した場合】

- ④ 対話テストを行うためのDisplay CheckHealth Interactiveダイアログが表示されます。



対話テストを実行する場合は、[CheckHealth]ボタンをクリックしてください。  
対話テストを終了する場合は、[Exit]ボタンをクリックしてください。

#### 【対話テストの準備に失敗した場合】

- ④ エラーメッセージが表示されます。



---

## 4章 OPoS コントロール

---

本章ではOPoSコントロールの利用手順を説明します。  
アプリケーションは下記の手順で本ソフトウェアを使用してください。

- ① **Open** :            コントロールオブジェクトをサービスオブジェクトにリンクします。
- ② **ClaimDevice** :   デバイスに排他アクセスできるようにするために呼び出します。
- ③ **DeviceEnabled** : デバイスを動作させる場合TRUEに設定します。
- ④   デバイスを使用します。(各プロパティ・メソッド・イベント)
- ⑤ **DeviceEnabled** : FALSEに設定してデバイスをディセーブルにします。
- ⑥ **ReleaseDevice** : デバイスの排他アクセスを解除します。
- ⑦ **Close** :           サービスオブジェクトをコントロールオブジェクトから解放します。

ラインディスプレイコントロールはイミディエイトモードのみサポートします。  
テレタイプモードとマーキーモードに関連するメソッドやプロパティのインターフェイスは提供されますが動作はサポートしていません。

ラインディスプレイコントロールで制御するディスプレイは排他的に使用するデバイスです。

## 5章 ラインディスプレイコントロールの インターフェイス仕様

本章では本ソフトウェアに実装されているラインディスプレイコントロールのプロパティ・メソッド・イベントについて説明します。

### 5.1 一覧

#### 5.1.1 共通プロパティ

プロパティ名	型	アクセス	使用可能 条件	初期値
<b>BinaryConversion</b>	Long	R/W	Open	OPOS_BC_NONE (0)
<b>CapCompareFirmwareVersion</b>	Boolean	R	Open	FALSE
<b>CapPowerReporting</b>	Long	R	Open	OPOS_PR_NONE (0)
<b>CapStatisticsReporting</b>	Boolean	R	Open	FALSE
<b>CapUpdateFirmware</b>	Boolean	R	Open	FALSE
<b>CapUpdateStatistics</b>	Boolean	R	Open	FALSE
<b>CheckHealthText</b>	String	R	Open	""
<b>Claimed</b>	Boolean	R	Open	FALSE
<b>ControlObjectDescription</b>	String	R	–	"OPOS LineDisplay Control 1.14.xxx [Public, by CRM/MCS]"
<b>ControlObjectVersion</b>	Long	R	–	1014xxx
<b>DeviceDescription</b>	String	R	Open	"SII DSP-A01 Line Display"
<b>DeviceEnabled</b>	Boolean	R/W	Open & Claim	FALSE
<b>DeviceName</b>	String	R	Open	"DSP-A01 Line Display"
<b>FreezeEvents</b>	Boolean	R/W	Open	FALSE
<b>OpenResult</b>	Long	R	–	OPOS_SUCCESS (0)
<b>PowerNotify</b>	Long	R/W	Open	OPOS_PN_DISABLED (0)
<b>PowerState</b>	Long	R	Open	OPOS_PS_UNKNOWN (2000)
<b>ResultCode</b>	Long	R	–	OPOS_SUCCESS (0)
<b>ResultCodeExtended</b>	Long	R	Open	0
<b>ServiceObjectDescription</b>	String	R	Open	"SII DSP-A01 LineDisplay Service Object, Copyright (C) 20xx Seiko Instruments Inc."

プロパティ名	型	アクセス	使用可能条件	初期値
<b>ServiceObjectVersion</b>	Long	R	Open	1014xxx
<b>State</b>	Long	R	–	OPOS_S_CLOSED (1)

### 5.1.2 専用プロパティ

(DefaultScreenMode=2×20、CharacterSet=932の場合)

プロパティ名	型	アクセス	使用可能条件	初期値
<b>CapBrightness</b>	Boolean	R	Open	TRUE
<b>CapCharacterSet</b>	Long	R	Open	DISP_CCS_KANJI (11)
<b>CapScreenMode</b>	Boolean	R	Open	TRUE
<b>CharacterSet</b>	Long	R/W	Open, Claim, & Enable	932 <sup>*1</sup>
<b>CharacterSetList</b>	String	R	Open	"437, 737, 850, 852, 855, 857, 858, 860, 863, 865, 866, 932, 999, 1250, 1251, 1252, 1253, 1254"
<b>Columns</b>	Long	R	Open	<b>DeviceColumns</b> の値
<b>CursorColumn</b>	Long	R/W	Open	0
<b>CursorRow</b>	Long	R/W	Open	0
<b>CursorUpdate</b>	Boolean	R/W	Open	TRUE
<b>DeviceBrightness</b>	Long	R/W	Open, Claim, & Enable	100 <sup>*1</sup>
<b>DeviceColumns</b>	Long	R	Open	20
<b>DeviceRows</b>	Long	R	Open	2
<b>DeviceWindows</b>	Long	R	Open	0
<b>Rows</b>	Long	R	Open	<b>DeviceRows</b> の値
<b>ScreenMode</b>	Long	R/W	Open & Claim	1 <sup>*1</sup>
<b>ScreenModeList</b>	String	R	Open	"2x20, 5x20, 2x40, 5x40, 8x40"

\*1：設定プログラムにより変更可能

下記の専用プロパティは、提供されますが動作はサポートしていません。

プロパティ名	型	アクセス	使用可能条件	初期値
<b>BlinkRate</b>	Long	R/W <sup>*1</sup>	Open	0
<b>CapBitmap</b>	Boolean	R	Open	FALSE
<b>CapBlink</b>	Long	R	Open	DISP_CB_NOBLINK (0)
<b>CapBlinkRate</b>	Boolean	R	Open	FALSE
<b>CapCursorType</b>	Long	R	Open	DISP_CCT_NONE (0x00000000)
<b>CapCustomGlyph</b>	Boolean	R	Open	FALSE
<b>CapDescriptors</b>	Boolean	R	Open	FALSE
<b>CapICharWait</b>	Boolean	R	Open	FALSE



プロパティ名	型	アクセス	使用可能条件	初期値
<b>CapHMarquee</b>	Boolean	R	Open	FALSE
<b>CapMapCharacterSet</b>	Boolean	R	Open	FALSE
<b>CapReadBack</b>	Long	R	Open	DISP_CRB_NONE (0x00000000)
<b>CapReverse</b>	Long	R	Open	DISP_CR_NONE (0x00000000)
<b>CapVMarquee</b>	Boolean	R	Open	FALSE
<b>CurrentWindow</b>	Long	R/W <sup>*1</sup>	Open	0
<b>CursorType</b>	Long	R/W <sup>*1</sup>	Open	DISP_CT_NONE (0)
<b>CustomGlyphList</b>	String	R	Open	""
<b>DeviceDescriptors</b>	Long	R	Open	0
<b>GlyphHeight</b>	Long	R	Open	24
<b>GlyphWidth</b>	Long	R	Open	24
<b>InterCharacterWait</b>	Long	R/W <sup>*1</sup>	Open	0
<b>MapCharacterSet</b>	Boolean	R/W <sup>*1</sup>	Open	FALSE
<b>MarqueeFormat</b>	Long	R/W <sup>*1</sup>	Open	DISP_MF_WALK (0)
<b>MarqueeRepeatWait</b>	Long	R/W <sup>*1</sup>	Open	0
<b>MarqueeType</b>	Long	R/W <sup>*1</sup>	Open	DISP_MT_NONE (0)
<b>MarqueeUnitWait</b>	Long	R/W <sup>*1</sup>	Open	0
<b>MaximumX</b>	Long	R	Open	0
<b>MaximumY</b>	Long	R	Open	0

\*1: 初期値を設定時のみ OPOS\_SUCCESS (0) が **ResultCode** に格納されます。  
初期値以外の場合は、OPOS\_E\_ILLEGAL (106) が **ResultCode** に格納されます。

### 5.1.3 共通メソッド

メソッド名	使用可能条件
<b>CheckHealth</b>	Open, Claim, & Enable
<b>ClaimDevice</b>	Open
<b>Close</b>	Open
<b>CompareFirmwareVersion</b>	Open, Claim, & Enable
<b>DirectIO</b>	Open, Claim, & Enable <sup>*1</sup>
<b>Open</b>	–
<b>ReleaseDevice</b>	Open & Claim
<b>ResetStatistics</b>	Open, Claim, & Enable
<b>RetrieveStatistics</b>	Open, Claim, & Enable
<b>UpdateFirmware</b>	Open, Claim, & Enable
<b>UpdateStatistics</b>	Open, Claim, & Enable

\*1: OPOS APG V1.14.1とは使用可能条件が異なる箇所です。

#### 5.1.4 専用メソッド

メソッド名	使用可能条件
<b>ClearText</b>	Open, Claim, & Enable
<b>DisplayText</b>	Open, Claim, & Enable
<b>DisplayTextAt</b>	Open, Claim, & Enable

下記の専用メソッドは、提供されますが動作はサポートしていません。

OPOS\_E\_ILLEGAL(106)が戻され、**ResultCode**にも格納されます。

メソッド名	使用可能条件
<b>ClearDescriptors</b>	Open, Claim, & Enable
<b>CreateWindow</b>	Open, Claim, & Enable
<b>DefineGlyph</b>	Open, Claim, & Enable
<b>DestroyWindow</b>	Open, Claim, & Enable
<b>DisplayBitmap</b>	Open, Claim, & Enable
<b>ReadCharacterAtCursor</b>	Open, Claim, & Enable
<b>RefreshWindow</b>	Open, Claim, & Enable
<b>ScrollText</b>	Open, Claim, & Enable
<b>SetBitmap</b>	Open, Claim, & Enable
<b>SetDescriptor</b>	Open, Claim, & Enable

#### 5.1.5 イベント

イベントは、サポートしていません。

## 5.2 表示データとエスケープシーケンス

### 5.2.1 指定時のみ動作するエスケープシーケンス

名称	データ	内容
ビットマップ表示	ESC #B	サポートしていません。

### 5.2.2 表示時に動作するエスケープシーケンス

名称	データ	内容
反転文字	ESC rvC	サポートしていません。
ブリンク	ESC kC	サポートしていません。
ノーマル	ESC N	サポートしていません。

## 5.3 共通プロパティ

### BinaryConversion プロパティ R/W

形式 **LONG BinaryConversion;**

説明 OPOSはBStringを使用してマルチキャラクタ入力／出力を受け渡します。BStringは安全にテキストデータに使用できます。BStringはアプリケーションとOPOSコントロールの間の受け渡し時に、OLEはUnicodeコードから、またはUnicodeコードへと、言語固有の変換を行います。BStringがバイナリデータの受け渡しに使用される場合、アプリケーションでのBString文字内のデータバイトがコントロールでの対応データと適合しない時は、これらの変換は元のデータを変更してしまう場合があります。UnicodeコードキャラクタがアプリケーションやOPOSコントロールに渡される時、各コンポーネントの言語固有の違いが誤解釈を引き起こすため、この不適合はBStringポインタが使用されている場合にも起こり得ます。

0x00から0x7Fまでの文字は問題ありません。0x80から0xFFまでの文字のみが不正な変換を引き起こす場合があります。

**BinaryConversion**の値は下記の通りです。

値	意味
OPOS_BC_NONE (0)	データは変換されずにBString一文字は1バイトで格納されます。
OPOS_BC_NIBBLE (1)	各バイトは2つの文字に変換されます。(このオプションでバイナリとASCII文字間の最速変換ができます。) 各データバイトは下記のように変換されます。 第一文字=0x30+データバイトの7~4ビット 第二文字=0x30+データバイトの3~0ビット 例：バイト値154=0x9Aは文字0x39 0x3A (文字列"9:")の文字に変換されます。この変換方法は、バイト値154=0x9Aをコード0x39 0x41 (文字列の"9A")の文字に変換する、一般的な16進値のASCII文字変換とは異なります。
OPOS_BC_DECIMAL (2)	各バイトは3つの文字に変換されます。VAL (string) はASCIIからバイナリへ変換するために各3文字で使用されます。各バイトから3つのASCII文字を作成するためにRIGHT("^"+STR(byte), 3)が使用され、' ^ ' はスペース文字を表します。 例1：バイト値154=0x9Aは、文字0x31 0x35 0x34になります。(=文字列"154")。 例2：バイト値8は、文字0x30 0x30 0x38になります。(=文字列"008")。

**BinaryConversion**設定時 (OPOS\_BC\_NONE (0) でない場合) で、プロパティやメソッドパラメータが**BinaryConversion**の指定が適用される場合は、アプリケーションは、プロパティの設定とメソッドパラメータの受け渡し前に、文字列データを**BinaryConversion**の値に指定されたフォーマットに変換する必要があります。

本プロパティは、**Open**によりOPOS\_BC\_NONE (0) に初期化されます。

戻り値 本プロパティ設定時、下記の値のいずれかが**ResultCode**に格納されます。

値	意味
OPOS_SUCCESS (0)	プロパティの設定に成功しました。
OPOS_E_ILLEGAL (106)	不正な値が指定されました。

## CapCompareFirmwareVersion プロパティ

形式 **BOOL CapCompareFirmwareVersion;**

説明 ファームウェアバージョンを比較する機能を示します。  
本プロパティの示す値は下記の通りです。

値	意味
FALSE	本プロパティはサポートしていません。

本プロパティは、**Open**によりFALSEに初期化されます。

## CapPowerReporting プロパティ

形式 **LONG CapPowerReporting;**

説明 デバイスの通知能力を識別します。  
本プロパティの示す値は下記の通りです。

値	意味
OPOS_PR_NONE (0)	本プロパティはサポートしていません。

本プロパティは、**Open**によりOPOS\_PR\_NONE (0)に初期化されます。

## CapStatisticsReporting プロパティ

形式 **BOOL CapStatisticsReporting;**

説明 デバイスのスタティスティクス収集機能を示します。  
本プロパティの示す値は下記の通りです。

値	意味
FALSE	デバイスに関する有効なスタティスティクスは有りません。

本プロパティは、**Open**によりFALSEに初期化されます。

## CapUpdateFirmware プロパティ

形式 **BOOL CapUpdateFirmware;**

説明 ファームウェアのアップデート機能を示します。  
本プロパティの示す値は下記の通りです。

値	意味
FALSE	本プロパティはサポートしていません。

本プロパティは、**Open**によりFALSEに初期化されます。

## CapUpdateStatistics プロパティ

形式 **BOOL CapUpdateStatistics;**

説明 デバイスのスタティスティクスリセット機能を示します。  
本プロパティの示す値は下記の通りです。

値	意味
FALSE	アプリケーションがリセット/変更できるスタティスティクスはありません。

本プロパティは、**Open**によりFALSEに初期化されます。

## CheckHealthText プロパティ

形式 **BSTR CheckHealthText;**

説明 直前に呼び出した**CheckHealth**の結果を保持します。  
下記に診断結果の例を示します。

値	意味
"Internal HCheck: Successful"	デバイスを使用しないヘルスチェックに成功しました。
"Internal HCheck: Failure"	デバイスを使用しないヘルスチェックに失敗しました。
"External HCheck: Successful"	デバイスを使用した、ディスプレイとの通信確認と表示に成功しました。
"External HCheck: Failure"	デバイスを使用した、ディスプレイとの通信確認、または表示に失敗しました。
"Interactive HCheck: Successful"	デバイスとの対話テストに成功しました。
"Interactive HCheck: Failure"	デバイスとの対話テストに失敗しました。
"Interactive HCheck: Canceled"	デバイスとの対話テストの場合、一度もテストをせずにダイアログを閉じました。

最初の**CheckHealth**の呼び出し以前は空文字列に初期化されています。

## Claimed プロパティ

形式 **BOOL Claimed;**

説明 デバイスの排他アクセス権の状態を示します。  
本プロパティの示す値は下記の通りです。

値	意味
TRUE	デバイスの排他アクセス権が獲得されています。
FALSE	デバイスはほかのアプリケーションと共有できるよう解放されています。

本プロパティは、**Open**によりFALSEに初期化されます。

## ControlObjectDescription プロパティ

形式 **BSTR ControlObjectDescription;**

説明 本プロパティでコントロールオブジェクトを識別します。  
"OPOS LineDisplay Control 1.14.xxx [Public, by CRM/MCS]" が設定されています。

本プロパティは、いつでも読取り可能です。

## ControlObjectVersion プロパティ

形式 **LONG ControlObjectVersion;**

説明 本プロパティはコントロールオブジェクトバージョン番号を保持します。

本プロパティは、いつでも読取り可能です。

## DeviceDescription プロパティ

形式 **BSTR DeviceDescription;**

説明 本プロパティは、デバイスとそれに関連する情報を示します。  
本プロパティの示す値は下記の通りです。

ディスプレイ	初期値
DSP-A01	"SII DSP-A01 Line Display"

## DeviceEnabled プロパティ R/W

形式 **BOOL DeviceEnabled;**

説明 デバイスの有効/無効を選択します。  
本プロパティの示す値は下記の通りです。

値	意味
TRUE	デバイスはイネーブルにされています（動作状態です）。 TRUEに変更するとイネーブルにされます。
FALSE	デバイスはディセーブルにされています。 FALSEに変更すると、ディセーブルにされます。

デバイスを使用する前に、アプリケーションは本プロパティをTRUEに設定する必要があります。

本プロパティは、**Open**によりFALSEに初期化されます。

戻り値 本プロパティ設定時、下記の値のいずれかが**ResultCode**に格納されます。

値	意味
OPOS_SUCCESS (0)	プロパティの設定に成功しました。
OPOS_E_NOTCLAIMED (103)	排他使用デバイスをイネーブルにするには、その前に排他アクセス権を獲得する必要があります。
OPOS_E_NOHARDWARE (107)	プリンター経由で使用する場合： 下記のいずれかの状態です。 <ul style="list-style-type: none"><li>・プリンターの電源がオフ</li><li>・プリンターとホストが未接続</li><li>・プリンターの先にディスプレイが未接続（<b>DeviceEnabled</b>のみ）</li></ul> 単体で使用する場合： ディスプレイとホストがつながっていません。
OPOS_E_FAILURE (111)	デバイスをイネーブル状態にできませんでした。設定情報と機器から取得した情報が異なっている可能性があります。

## DeviceName プロパティ

形式 **BSTR DeviceName;**

説明 本プロパティは、デバイスとそれに関連する情報を示します。  
本プロパティの示す値は下記の通りです。

ディスプレイ	初期値
DSP-A01	"DSP-A01 Line Display"



## FreezeEvents プロパティ R/W

形式 **BOOL FreezeEvents;**

説明 イベントの通知/非通知を選択します。  
本プロパティの示す値は下記の通りです。

値	意味
FALSE	本プロパティはサポートしていません。

本プロパティは、**Open**によりFALSEに初期化されます。

## OpenResult プロパティ

形式 **LONG OpenResult;**

説明 最新の**Open**での結果を保持します。本プロパティの示す値は下記の通りです。

値	意味
OPOS_SUCCESS (0)	オープンが成功しました。
OPOS_OR_ALREADYOPEN (301)	すでにオープンされています。
OPOS_OR_REGBADNAME (302)	レジストリに指定したデバイス名のキーが存在しません。
OPOS_OR_REGPROGID (303)	デバイス名のキーのデフォルト値が読めないか、そこに保持されたプログラマティックIDを有効なクラスIDに変換できませんでした。
OPOS_OR_CREATE (304)	サービスオブジェクトインスタンスを生成できなかったか、IDispatchインターフェイスを取得できませんでした。
OPOS_OR_BADIF (305)	サービスオブジェクトは指定版数で要求される1つ、またはそれ以上のメソッドをサポートしていません。

本プロパティは、**Open**によりOPOS\_SUCCESS (0)に初期化されます。

## PowerNotify プロパティ R/W

形式 **LONG PowerNotify;**

説明 アプリケーションから設定された電源通知機能のタイプを示します。  
本プロパティの示す値は下記の通りです。

値	意味
OPOS_PN_DISABLED (0)	本プロパティはサポートしていません。

本プロパティは、**Open**によりOPOS\_PN\_DISABLED (0)に初期化されます。

## PowerState プロパティ

形式 **LONG PowerState;**

説明 現在のデバイスの電源状態が設定されます。  
本プロパティの示す値は下記の通りです。

値	意味
OPOS_PS_UNKNOWN (2000)	本プロパティはサポートしていません。

本プロパティは、**Open**によりOPOS\_PS\_UNKNOWN(2000)に初期化されます。

## ResultCode プロパティ

形式 **LONG ResultCode;**

説明 本プロパティは、各メソッドが設定します。書込み可能プロパティを設定した時も設定されます。

本プロパティは、いつでも読取り可能です。**Open**を呼び出すまでは、OPOS\_E\_CLOSED(101)を返します。

本プロパティの示す値は下記の通りです。

値	意味
OPOS_SUCCESS (0)	正常動作です。
OPOS_E_CLOSED (101)	クローズされているデバイスにアクセスしようとしました。 このエラーについては、プロパティ、メソッドの説明では記載しません。
OPOS_E_NOTCLAIMED (103)* <sup>1</sup>	メソッドまたはプロパティ設定処理を使用する前に、排他アクセス権の獲得をしなければならない排他使用デバイスにアクセスしようとしました。
OPOS_E_NOSERVICE (104)	コントロールがサービスオブジェクトと通信できません。 本ソフトウェアを再インストールしてください。 アンインストールの手順は「2.2 アンインストール」を参照してください。 インストールの手順は「2.1 インストール」を参照してください。
OPOS_E_DISABLED (105)* <sup>1</sup>	デバイスをディセーブルしている時には動作を実行できません。
OPOS_E_ILLEGAL (106)	デバイスに無効な動作か、サポートされていない動作を実行しようとしたか、無効なパラメータ値を使用しました。
OPOS_E_NOHARDWARE (107)	プリンター経由で使用する場合： 下記のいずれかの状態です。 ・プリンターの電源がオフ ・プリンターとホストが未接続 単体で使用する場合： ディスプレイとホストがつながっていません。
OPOS_E_NOEXIST (109)	ファイル名（または他の指定値）が存在していません。

値	意味
OPOS_E_FAILURE(111)	デバイスがシステムに接続され、電源が入っていてオンラインですが、リクエストされた処理をデバイスが実行できません。
OPOS_E_TIMEOUT(112)	デバイスからの応答を待ち合わせていたサービスオブジェクトがタイムアウトしたか、デバイスへのデータの送信が送信タイムアウト時間を越えても送信できませんでした。

\*1 : OPOS\_E\_NOTCLAIMED(103) 及び OPOS\_E\_DISABLED(105) の両方で複数の値が有効となる場合は、OPOS\_E\_NOTCLAIMED(103) の値が優先されます。

## ResultCodeExtended プロパティ

形式 **LONG ResultCodeExtended;**

説明 本プロパティは、**Open**により0に初期化されます。拡張エラーコードはサポートしていません。

参照 **ResultCode**

## ServiceObjectDescription プロパティ

形式 **BSTR ServiceObjectDescription;**

説明 本プロパティでサービスオブジェクトを識別するための文字列が設定されています。  
本プロパティの示す値は下記の通りです。

ディスプレイ	初期値
DSP-A01	"SII DSP-A01 LineDisplay Service Object, Copyright (C) 20xx Seiko Instruments Inc."

## ServiceObjectVersion プロパティ

形式 **LONG ServiceObjectVersion;**

説明 サービスオブジェクトバージョン番号を保持します。

本プロパティは、**Open**により初期化されます。

## State プロパティ

形式      **LONG State;**

説明      コントロールの現在の状態を示します。  
本プロパティの示す値は下記の通りです。

値	意味
OPOS_S_CLOSED(1)	コントロールはクローズしています。
OPOS_S_IDLE(2)	コントロールは正常な状態にあり、ビジーではありません。

本プロパティは、いつでも読取り可能です。

本プロパティは**Open**によりOPOS\_S\_IDLE(2)に初期化されます。

## 5.4 専用プロパティ

### CapBrightness プロパティ

形式 **BOOL CapBrightness;**

説明 輝度の制御機能を示します。  
本プロパティの示す値は下記の通りです。

値	意味
TRUE	輝度の制御ができます。

本プロパティは、**Open**によりTRUEに初期化されます。

### CapCharacterSet プロパティ

形式 **LONG CapCharacterSet;**

説明 表示可能な文字設定を示します。  
本プロパティには、下記に示す値が入ります。

値	意味
DISP_CCS_KANJI(11)	文字設定は、Code Page932をサポートします。 0xA1と0xDFの間の半角のカタカナ、0x20と0x7Fの間の全てのASCII文字をサポートします。また、JIS第一水準、JIS第二水準レベルで定義される文字のシフトJISコード文字をサポートします。

本プロパティは、**Open**によりDISP\_CCS\_KANJI(11)に初期化されます。

### CapScreenMode プロパティ

形式 **BOOL CapScreenMode;**

説明 デバイスのスクリーンモード（例えばデバイス上のテキスト行数桁数）の変更機能を示します。  
本プロパティの示す値は下記の通りです。

値	意味
TRUE	スクリーンモードは変更できます。

本プロパティは、**Open**によりTRUEに初期化されます。

## CharacterSet プロパティ R/W

形式 **LONG CharacterSet;**

説明 文字の表示に用いるキャラクタを設定します。  
本プロパティには、下記に示す値の内の1つが設定されます。

値	意味
437	Code Page437文字セットを選択します。
737	Code Page737文字セットを選択します。
850	Code Page850文字セットを選択します。
852	Code Page852文字セットを選択します。
855	Code Page855文字セットを選択します。
857	Code Page857文字セットを選択します。
858	Code Page858文字セットを選択します。
860	Code Page860文字セットを選択します。
863	Code Page863文字セットを選択します。
865	Code Page865文字セットを選択します。
866	Code Page866文字セットを選択します。
932	Code Page932文字セット(シフトJISコード)として、Katakanaを選択します。
PTR_CS_ANSI(999) / PTR_CS_WINDOWS(999)	Windows ANSIキャラクタを設定します。*1
1250	Code Page1250文字セットを選択します。
1251	Code Page1251文字セットを選択します。
1252	Code Page1252文字セットを選択します。*1
1253	Code Page1253文字セットを選択します。
1254	Code Page1254文字セットを選択します。

\*1: Windows ANSI文字セットとCode Page1252は等しい文字セットです。

本プロパティは、設定プログラムの設定によって、初期値の変更が可能です。  
本プロパティはデバイスを最初にイネーブルにした際に、設定プログラムの  
[DefaultCharacterSet]で設定されている値に初期化されます。

戻り値 本プロパティ設定時、下記の値のいずれかが**ResultCode**に格納されます。

値	意味
OPOS_SUCCESS(0)	プロパティは正常に設定されました。
その他	<b>ResultCode</b> の項目を参照してください。

## CharacterSetList プロパティ

形式 **BSTR CharacterSetList;**

説明 サポートするキャラクタ設定を数値配列で示します。  
"437, 737, 850, 852, 855, 857, 858, 860, 863, 865, 866, 932, 999, 1250, 1251, 1252, 1253, 1254"が設定されます。

本プロパティは、**Open**により上記の値に初期化されます。

## Columns プロパティ

形式 **LONG Columns;**

説明 カレントウィンドウの桁数が設定されています。  
本プロパティは、**DeviceColumns**と同じです。

本プロパティは、**Open**により**DeviceColumns**の値に初期化されます。

## CursorColumn プロパティ R/W

形式 **LONG CursorColumn;**

説明 カレントウィンドウの、次の表示文字が出力される桁が設定されています。

有効な値は、0から(**Columns**)の範囲です。(DisplayTextの“**CursorColumn = Columns**”の説明を参照のこと。)

本プロパティは、**Open**、及び**ClearText**により0に初期化されます。

**CursorUpdate**がTRUEの場合には、**DisplayText**、または**DisplayTextAt**の呼び出しにより更新されます。

戻り値 本プロパティ設定時、下記の値のいずれかが**ResultCode**に格納されます。

値	意味
OPOS_SUCCESS (0)	プロパティは正常に設定されました。
OPOS_E_ILLEGAL (106)	無効なカーソル桁数値が指定されました。

## CursorRow プロパティ R/W

形式 **LONG CursorRow;**

説明 カレントウィンドウの、次の表示文字が出力される行が設定されています。

有効な値は、0から (**Rows** - 1) の範囲です。

本プロパティは、**Open**、及び**ClearText**により0に初期化されます。

**CursorUpdate**がTRUEの場合には、**DisplayText**、または**DisplayTextAt**の呼び出しにより更新されます。

戻り値 本プロパティ設定時、下記の値のいずれかが**ResultCode**に格納されます。

値	意味
OPOS_SUCCESS (0)	プロパティは正常に設定されました。
OPOS_E_ILLEGAL (106)	無効なカーソル行値が指定されました。

## CursorUpdate プロパティ R/W

形式 **BOOL CursorUpdate;**

説明 **DisplayText**、または**DisplayTextAt**で文字が表示されると、**CursorRow**、及び**CursorColumn**は、表示された最後の文字の次を指すように更新されます。  
本プロパティの示す値は下記の通りです。

値	意味
TRUE	<b>DisplayText</b> 、または <b>DisplayTextAt</b> で文字が表示されると、 <b>CursorRow</b> 、及び <b>CursorColumn</b> は、表示された最後の文字の次を指すように更新されます。
FALSE	文字が表示されてもカーソルプロパティは更新されません。

本プロパティは、**Open**によりTRUEに初期化されます。

戻り値 本プロパティ設定時、下記の値が**ResultCode**に格納されます。

値	意味
OPOS_SUCCESS (0)	プロパティは正常に設定されました。



## DeviceBrightness プロパティ R/W

形式 **LONG DeviceBrightness;**

説明 0から100までのパーセント表現によるデバイスの輝度が設定されます。  
本プロパティの示す値は下記の通りです。

値	意味
0	0 : 0%(ブランク)
1～10	10 : 10%輝度
11～20	20 : 20%輝度
21～30	30 : 30%輝度
31～40	40 : 40%輝度
41～50	50 : 50%輝度
51～60	60 : 60%輝度
61～70	70 : 70%輝度
71～80	80 : 80%輝度
81～90	90 : 90%輝度
91～100	100 : 100%輝度

本プロパティは、設定プログラムの設定によって、初期値の変更が可能です。  
本プロパティはデバイスを最初にイネーブルにした際に、設定プログラムの  
[DeviceBrightness]で設定されている値に初期化されます。

戻り値 本プロパティ設定時、下記の値のいずれかが**ResultCode**プロパティに格納されます。

値	意味
OPOS_SUCCESS (0)	プロパティは正常に設定されました。
OPOS_E_ILLEGAL (106)	無効な値が指定されました。0から100の範囲外の値です。

## DeviceColumns プロパティ

形式 **LONG DeviceColumns;**

説明 デバイスの桁数が設定されています。

本プロパティは、**Open**により初期化されます。  
本プロパティは、**Open**直後の**ClaimDevice**の呼び出しにより設定プログラムの  
[DefaultScreenMode]で設定されている値のデバイスの桁数に更新されます。  
また、**ScreenMode**のインデックス値の変更により更新されます。

## DeviceRows プロパティ

形式 **LONG DeviceRows;**

説明 デバイスの行数が設定されています。

本プロパティは、**Open**により初期化されます。

本プロパティは、**Open**直後の**ClaimDevice**の呼び出しにより設定プログラムの  
[DefaultScreenMode]で設定されている値のデバイスの行数に更新されます。

また、**ScreenMode**のインデックス値の変更により更新されます。

## DeviceWindows プロパティ

形式 **LONG DeviceWindows;**

説明 サポートできるウィンドウの最大数が設定されています。

本プロパティの示す値は下記の通りです。

値	意味
0	デバイスウィンドウのみがサポートされます。 新たなウィンドウを作成することはできません。

本プロパティは、**Open**により0に初期化されます。

## Rows プロパティ

形式 **LONG Rows;**

説明 カレントウィンドウの行数が設定されています。

本プロパティは**DeviceRows**と同じです。

本プロパティは、**Open**により**DeviceRows**と同じ値に初期化されます。

## ScreenMode プロパティ R/W

形式 **LONG ScreenMode;**

説明 デバイスのスクリーンモードを示します。  
本プロパティの値はスクリーンモードの**ScreenModeList**上のインデックス値です。  
下記にインデックス値の例を示します。

インデックス値	意味
0	デフォルトスクリーンモード
1	2×20
2	5×20
3	2×40
4	5×40
5	8×40

本プロパティは、Open&Claim済みで、かつイネーブルではない状態でのみ更新することができます。

本プロパティは、設定プログラムの設定によって、初期値の変更が可能です。  
本プロパティは、**Open**により設定プログラムの[DefaultScreenMode]で設定されている値に初期化されます。

## ScreenModeList プロパティ

形式 **BSTR ScreenModeList;**

説明 デバイスがサポートしている行数桁数の組合せをカンマ区切りのリストで示します。  
本プロパティは、**Open**により"2×20, 5×20, 2×40, 5×40, 8×40"に初期化されます。

## 5.5 共通メソッド

### CheckHealth メソッド

形式      **LONG CheckHealth (LONG Level);**

*Level*は、デバイスで実行するヘルスチェックのタイプを示します。下記の値を指定できます。

値	意味
OPOS_CH_INTERNAL (1)	デバイスの物理状態を変化させない内部テストを実行します。ディスプレイが表示可能な状態であるかどうかを確認します。
OPOS_CH_EXTERNAL (2)	ディスプレイとの通信を確認後、ディスプレイの表示のテストを実行します。
OPOS_CH_INTERACTIVE (3)	デバイスとの対話テストを実行します。 本サービスオブジェクトは、モーダルダイアログを表示して、ディスプレイの表示のテストを実行します。

説明      デバイスの状態をテストする時に呼び出します。本メソッドの結果は**CheckHealthText**に格納されます。**CheckHealth**は常に同期します。

戻り値      下記の値のいずれかが戻され、**ResultCode**にも格納されます。

値	意味
OPOS_SUCCESS (0)	ヘルスチェックプロシージャが適切に開始されたことを示し、確認できた場合、デバイスが正常であることを示します。しかし、正常かどうかはテスト結果を見ないと決定できません。
OPOS_E_ILLEGAL (106)	サポートされていない <i>Level</i> が指定されました。
その他	<b>ResultCode</b> の項目を参照してください。

### ClaimDevice メソッド

形式      **LONG ClaimDevice (LONG Timeout);**

*Timeout*は、排他アクセス権を獲得するまでの最大待ち時間（ミリ秒）を示します。

0の場合、メソッドはデバイスの排他アクセス権が獲得できなかった場合でも、その結果を直ちに返します。

OPOS\_FOREVER (-1)が設定されている場合は、メソッドは排他アクセス権が獲得できるまで待ちます。

説明      デバイスに対して排他アクセスを要求する時に、本メソッドを呼び出します。  
ラインディスプレイは排他アクセス権を獲得しなければ、使用することはできません。  
成功すると、**Claimed**はTRUEに設定されます。

戻り値 下記の値のいずれかが戻され、**ResultCode**にも格納されます。

値	意味
OPOS_SUCCESS (0)	排他アクセス権が認められました。 <b>Claimed</b> はTRUEになっています。このアプリケーションがすでにデバイスを排他アクセスしていた場合も戻されます。
OPOS_E_ILLEGAL (106)	無効な <i>Timeout</i> が指定されています。
OPOS_E_TIMEOUT (112)	別のアプリケーションがデバイスに排他アクセスしていて、解放されるのを待っていましたが <i>Timeout</i> 時間（ミリ秒）が過ぎました。または、 <i>Timeout</i> 時間（ミリ秒）経過しても、デバイスが処理可能な状態になりませんでした。

## Close メソッド

形式 **LONG Close ();**

説明 デバイスとそのリソースを解放します。  
**DeviceEnabled**がTRUEの場合、まずデバイスがディセーブルにされます。  
**Claimed**がTRUEの場合、まずデバイスの排他アクセスが解除されます。  
イベント処理中（イベントハンドラ内）では実行しないでください。

戻り値 下記の値のいずれかが戻され、**ResultCode**にも格納されます。

値	意味
OPOS_SUCCESS (0)	デバイスがディセーブルにされ、クローズしました。
その他	<b>ResultCode</b> の項目を参照してください。

## CompareFirmwareVersion メソッド

形式 **LONG CompareFirmwareVersion (BSTR FirmwareFileName, Long result);**

説明 本メソッドはサポートしていません。

戻り値 下記の値が戻され、**ResultCode**にも格納されます。

値	意味
OPOS_E_ILLEGAL (106)	本メソッドはサポートしていません。

## DirectIO メソッド

形式 **LONG DirectIO (LONG Command, LONG\* pData, BSTR\* pString);**

パラメータ	説明
<i>Command</i>	コマンド番号。サービスオブジェクトが割り当てた特定値です。
<i>pData</i>	数値データのポインタ。値はコマンド番号とサービスオブジェクトによって変化します。
<i>pString</i>	文字列データのポインタ。値はコマンド番号とサービスオブジェクトによって変化します。このデータのフォーマットは <b>BinaryConversion</b> の値に依存します。詳細は <b>BinaryConversion</b> を参照してください。

説明 下記の機能をサポートします。

- ・バイナリデータの送信
- ・指定ファイルの送信

### ・ バイナリデータの送信

任意のディスプレイコマンドを送信できます。

パラメータ	説明
<i>Command</i>	DISP_DI_SET_BINARYDATA (601)
<i>pData</i>	未使用
<i>pString</i>	IN 送信データ 16進の表現で文字列を指定します。 例：ディスプレイコマンド「テキストデータの入力」で US "LD" 31h 08h 00h 00h 00h "TXW" 31h 32h 33h 34h 35h を送信する場合 "1F4C4431080000005458573132333435" ディスプレイコマンドの詳細については、「DSP-A01シリーズ カスタマーディスプレイ技術説明書」を参照してください。

• **指定ファイルの送信**

指定ファイルを送信できます。

パラメータ	説明
<i>Command</i>	DISP_DI_SET_FILE (602)
<i>pData</i>	未使用
<i>pString</i>	IN 送信ファイル名 フルパスまたは相対パスを文字列で指定します。 指定可能なファイル形式はBIN、XML、JPEG、PNGです。 ディスプレイのユーザ領域の残りメモリ容量及びファイルの形式により、送信可能なファイルサイズが異なります。 詳細については、「DSP-A01シリーズ カスタマーディスプレイ技術説明書」を参照してください。 例： "C:¥Temp¥binary.bin" "C:¥Temp¥Template.xml" "C:¥Temp¥Image.jpg"

戻り値 下記の値のいずれかが戻され、**ResultCode**にも格納されます。

値	意味
OPOS_SUCCESS (0)	<b>DirectIO</b> が成功しました。
OPOS_E_NOTCLAIMED (103)	排他アクセスされていません。 <b>ClaimDevice</b> を実行してください。
OPOS_E_DISABLED (105)	イネーブルされていません。 <b>DeviceEnabled</b> をTRUEに設定後に実行してください。
OPOS_E_ILLEGAL (106)	下記のいずれかの状態です。 ・パラメータに誤りがあります。 ・サポートしないファイル形式が指定されました。 ・無効なコマンド番号が指定されました。
OPOS_E_NOHARDWARE (107)	プリンター経由で使用する場合： 下記のいずれかの状態です。 ・プリンターの電源がオフ ・プリンターとホストが未接続 単体で使用する場合： ディスプレイとホストがつながっていません。
OPOS_E_NOEXIST (109)	指定されたファイルが存在しません。
OPOS_E_FAILURE (111)	通信エラーが発生しました。

## Open メソッド

形式      **LONG Open (BSTR DeviceName);**

*DeviceName*は、オープンするデバイス名を指定します。登録されているデバイス名（"DSP-A01"など）またはディスプレイの論理デバイス名を指定して実行してください。

説明      デバイスをオープンする時に呼び出します。  
**Open**が成功すると、共通プロパティ、その他のクラス固有プロパティが初期化されます。

戻り値      下記の値のいずれかが戻され、**ResultCode**にも格納されます。

値	意味
OPOS_SUCCESS (0)	オープンが成功しました。
OPOS_E_NOSERVICE (104)	対応するサービスオブジェクトに接続できません。
OPOS_E_ILLEGAL (106)	該当のコントロールはすでにオープンしています。
OPOS_E_NOEXIST (109)	指定された <i>DeviceName</i> が見つかりません。これは、 <i>DeviceName</i> が空文字列で設定された場合も含まれます。
OPOS_E_FAILURE (111)	OPOSドライバの初期化に失敗しました。

備考      **Open**実行後の**ResultCode**の値は、下記の2つのケースでは、**Open**の戻り値と異なります。

OPOSコントロールがクローズしており**Open**が失敗した時：

- ・ **ResultCode**は、OPOS\_E\_CLOSED (101)のままです。

OPOSコントロールが既にオープンされている時：

- ・ **Open**の戻り値は、OPOS\_E\_ILLEGAL (106)となりますが、**ResultCode**は、**Open**実行前の値を保持しています。

## ReleaseDevice メソッド

形式      **LONG ReleaseDevice ();**

説明      デバイスの排他アクセスを解除する時に、本メソッドを呼び出します。  
**DeviceEnabled**がTRUEで排他デバイスならば、デバイスはディセーブルにされます。イベント処理中（イベントハンドラ内）では実行しないでください。

戻り値      下記の値のいずれかが戻され、**ResultCode**にも格納されます。

値	意味
OPOS_SUCCESS (0)	排他アクセスが解除されました。 <b>Claimed</b> はFALSEになります。
OPOS_E_ILLEGAL (106)	アプリケーションは該当のデバイスへの排他アクセス権を持っていません。
その他	<b>ResultCode</b> の項目を参照してください。



## ResetStatistics メソッド

形式 **LONG ResetStatistics (BSTR *StatisticsBuffer*);**

説明 本メソッドはサポートしていません。

戻り値 下記の値が戻され、**ResultCode**にも格納されます。

値	意味
OPOS_E_ILLEGAL (106)	本メソッドはサポートしていません。

## RetrieveStatistics メソッド

形式 **LONG RetrieveStatistics (BSTR\* *pStatisticsBuffer*);**

説明 本メソッドはサポートしていません。

戻り値 下記の値が戻され、**ResultCode**にも格納されます。

値	意味
OPOS_E_ILLEGAL (106)	本メソッドはサポートしていません。

## UpdateFirmware メソッド

形式 **LONG UpdateFirmware (BSTR *FirmwareFileName*);**

説明 本メソッドはサポートしていません。

戻り値 下記の値が戻され、**ResultCode**にも格納されます。

値	意味
OPOS_E_ILLEGAL (106)	本メソッドはサポートしていません。

## UpdateStatistics メソッド

形式 **LONG UpdateStatistics (BSTR *StatisticsBuffer*);**

説明 本メソッドはサポートしていません。

戻り値 下記の値が戻され、**ResultCode**にも格納されます。

値	意味
OPOS_E_ILLEGAL (106)	本メソッドはサポートしていません。

## 5.6 専用メソッド

### ClearText メソッド

形式      **LONG ClearText ();**

説明      カレントウィンドウ上のすべての文字を消去します。**CursorRow**と**CursorColumn**は、0へ設定されます。ウィンドウ内のすべてのビットマップを消去します。

戻り値      下記の値のいずれかが戻され、**ResultCode**にも格納されます。

値	意味
OPOS_SUCCESS (0)	メソッドは成功しました。
その他	<b>ResultCode</b> の項目を参照してください。

### DisplayText メソッド

形式      **LONG DisplayText (BSTR Data, LONG Attribute);**

パラメータ	意味
<i>Data</i>	表示する文字列です。 表示可能な文字とエスケープシーケンス、ラインフィード (LF)、キャリッジリターン (CR) から成ります。LF、CRについて、下記の <i>Data</i> 内の特別なキャラクタの値と意味を参照してください。 このデータのフォーマットは <b>BinaryConversion</b> に依存しています。詳細は <b>BinaryConversion</b> を参照してください。
<i>Attribute</i>	DISP_DT_NORMALのみサポートします。

*Data*内の特別なキャラクタの値と意味は、下記の通りです。

値	意味
LF	次の文字の出力位置を次行の先頭へ移動します。 現在の行がウィンドウの最終行の場合には、ウィンドウはスクロールします。
CR	次の文字の出力位置を現在行の先頭へ移動します。

説明      **CursorRow**と**CursorColumn**で指定される位置から*Data*の文字列を表示します。

行末に達した場合には、文字表示は次行に続けられます。ウィンドウの末尾になっても表示すべき文字がある場合には、ウィンドウは1行だけ上へスクロールアップします。

**CursorUpdate**がTRUEの場合には、**CursorRow**と**CursorColumn**は*Data*の末尾文字の次を指すように更新されます。

*Data*の末尾文字が行末に表示される場合には、スクロールは行われません。この場合、**CursorUpdate**がTRUEの場合には、**CursorRow**は末尾文字が表示されている行に設定され、**CursorColumn**は実行前の**Columns**（つまり、その行の末尾文字のひとつ次）に設定されます。この規定は、文字が末尾位置に書かれても表示はスクロールされないということを保証します。その代わり、コントロールオブジェクトは別の文字が書かれるまでウィンドウのスクロールを遅らせることができます。

本メソッドはウィンドウとビューポートを即座に更新します。

戻り値 下記の値のいずれかが戻され、**ResultCode**にも格納されます。

値	意味
OPOS_SUCCESS (0)	メソッドは正常終了しました。
OPOS_E_ILLEGAL (106)	<i>Attribute</i> が無効です。
その他	<b>ResultCode</b> の項目を参照してください。

## DisplayTextAt メソッド

形式 **LONG DisplayTextAt (LONG Row, LONG Column, BSTR Data, LONG Attribute);**

パラメータ	意味
<i>Row</i>	テキストの開始行。
<i>Column</i>	テキストの開始列。
<i>Data</i>	表示する文字列です。 表示可能な文字とエスケープシーケンス、ラインフィード (LF)、キャリッジリターン (CR) から成ります。LF、CRについて、下記の <i>Data</i> 内の特別なキャラクタの値と意味を参照してください。 このデータのフォーマットは <b>BinaryConversion</b> に依存しています。詳細は <b>BinaryConversion</b> を参照してください。
<i>Attribute</i>	DISP_DT_NORMALのみサポートします。

*Data*内の特別なキャラクタの値と意味は、下記の通りです。

値	意味
LF	次の文字の出力位置を次行の先頭へ移動します。 現在の行がウィンドウの最終行の場合には、ウィンドウはスクロールします。
CR	次の文字の出力位置を現在行の先頭へ移動します。

説明      *Row*と*Column*で指定される位置から*Data*の文字列を表示します。

行末に達した場合には、文字表示は次行に続けられます。ウィンドウの末尾になっても表示すべき文字がある場合には、ウィンドウは1行だけ上へスクロールアップします。

**CursorUpdate**がTRUEの場合には、**CursorRow**と**CursorColumn**は*Data*の末尾文字の次を指すように更新されます。

*Data*の末尾文字が行末に表示される場合には、スクロールは行われません。この場合、**CursorUpdate**がTRUEの場合には、**CursorRow**は末尾文字が表示されている行に設定され、**CursorColumn**は実行前の**Columns**（つまり、その行の末尾文字のひとつ次）に設定されます。この規定は、文字が末尾位置に書かれても表示はスクロールされないということを保証します。その代わり、コントロールオブジェクトは別の文字が書かれるまでウィンドウのスクロールを遅らせることができます。

戻り値      下記の値のいずれかが戻され、**ResultCode**にも格納されます。

値	意味
OPOS_SUCCESS (0)	メソッドは正常終了しました。
OPOS_E_ILLEGAL (106)	<b>Row</b> 、または <b>Column</b> が範囲外、もしくは <b>Attribute</b> が無効です。
その他	<b>ResultCode</b> の項目を参照してください。

## 6章 本ソフトウェアが使用するレジストリについて

設定プログラムにより設定されるレジストリの詳細を下記に示します。

レジストリの値は手動で設定することも可能ですが、設定プログラムで設定してください。また、レジストリ内容は、本ソフトウェアが**Open**を実行したタイミングで読み込まれますので、本ソフトウェア動作中に値を変更しても動作には反映されません。新しい設定値を反映させるには、一旦本ソフトウェアで**Close**を発行後、**Open**を発行してください。

### 6.1 ラインディスプレイコントロール

[レジストリキー]

HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥OLEforRetail¥ServiceOPOS¥LineDisplay¥デバイス名キー

デバイス名キーはディスプレイに依存します。ディスプレイのデバイス毎に設定プログラムにより追加されます。

ディスプレイ	デバイス名キー	意味
DSP-A01	"DSP-A01"など	設定プログラムで追加したディスプレイのデバイス名

[レジストリ値一覧]

値名	値	意味
(既定)	OPOS.LINEDISPLAY.S0.SII.DSP.1	ー
SODLLPath	C:¥Program Files¥SII¥OPOS¥LineDisplayS0.dll	ラインディスプレイサービスオブジェクトのファイル名称（フルパス）
DefaultCharacterSet	932（日本語） 999（英語）	<b>CharacterSet</b> の初期値
Description	SII DSP-A01 Line Display Service Object, Copyright (C) 20xx Seiko Instruments Inc.	ラインディスプレイサービスオブジェクトの詳細
DriverName	SII DSP-A01 SII RP-F10/G10	対応ドライバー名

値名	値	意味
LogRetentionPeriod	1	ログファイルの保存期間 1 : 1日分 3 : 3日分 10 : 10日分 30 : 30日分 90 : 90日分
LogLevel	-1	ラインディスプレイサービスオブジェクトのログ出力レベル -1 : 出力しない 0 : エラー 4 : トレース
DeviceBrightness	10	輝度設定 0 : 0% (ブランク) 1 : 10% 2 : 20% ... 10 : 100%
DefaultScreenMode	1	デバイスのスクリーンモード 1 : 2×20 2 : 5×20 3 : 2×40 4 : 5×40 5 : 8×40
Version	1. 14. xx	ラインディスプレイサービスオブジェクトのバージョン

---

## 7章 ヘッダファイルについて

---

### 7.1 ラインディスプレイヘッダファイル

本ソフトウェアで使用するヘッダファイルを下記に示します。  
本ソフトウェアで独自に定義する定数は下記の通りです。

- **DISP\_DI\_SET\_BINARYDATA**
- **DISP\_DI\_SET\_FILE**

ヘッダファイル siidispcommon.h

```
/////////////////////////////////////////////////////////////////
//
// SIIDispCommon.h
//
// Line Display header file for OPOS Applications.
//
/////////////////////////////////////////////////////////////////
#if !defined(SIIDISPCOMMON_H)
#define SIIDISPCOMMON_H

/////////////////////////////////////////////////////////////////
// Parameter Constants of "DirectIO" Method
/////////////////////////////////////////////////////////////////
const LONG DISP_DI_SET_BINARYDATA = 601;
const LONG DISP_DI_SET_FILE       = 602;
#endif //!defined(SIIDISPCOMMON_H)
```